輝け！ われらの太陽光発電所 Nov. 2006

PV-Net News

第12号

PV-Net News第12号 2006年11月7日発行 ■発行人：藤井石根 ■編集人：都筑 建 ■発行所：NPO法人 太陽光発電所ネットワーク 〒113-0034文京区湯島1-9-10-202
■記事・広告等のお問い合わせ E-Mail：info@greenenergy.jp TEL：03-5805-3577 ※記事および写真等の無断転載は固くお断わりいたします。
■インターネットでも情報をご覧いただけます。www.greenenergy.jp ■印刷：豊印刷（株） ■レイアウト：八木澤晴子 ■編集協力：（株）NOBOX

※太陽光発電のことを英語でPhotovoltaic power generationといい、略して「PV」と呼ばれています。
太陽光発電所ネットワークの英文名称PV Owner Network, Japanを省略して、この会の名称を「PV-Net」としています。

CONTENTS もくじ

1 PV-Net自立への出発にあたって……
代表理事就任に際して
いま改めて思うPV-Netの役割
大きな節目を迎えたPV-Net
PV-Netに寄せる想い
3 2006年度の部会メンバー
4 特集 実績の上がるPV-Green
第1部 実績報告
5 第2部 佐賀県太陽光発電トップランナー推進事業
6 第3部 計量法について～議論の現状と今後予想される対応～
7 PV-Netからの政策提言
自然の恵み―太陽光エネルギーをもっと豊かに！
8 PV-Net最前線
ソーラー・マイレージクラブ事業について
9 災害時、住宅PVをどう活用するか
10 3000名、そして1万名体制の実現をめざして
11 第1回新エネルギー世界展示会に出展！
太陽光発電を通じた省エネルギー型ライフスタイルを拡げよう！
エコプロ2006でのボランティアを募集しています！
12 各地の発電量データと太陽光発電所マップ
14 会員の広場
16 活動報告 地域の動き
22 理事会＆部会報告
24 事務局からのお知らせ
活動カレンダー

COLUMN コラム
2 ご寄付について
21 PV-Net川柳 第十回

PV-Net自立への出発にあたって……

代表理事就任に際して

―――代表理事 藤井石根（ふじい いわね）

■ 我々を取り巻く現状

本会はご承知の通り、去る2003年5月に結成され、今年で早丸4年もの歳月を重ねることになりました。その間、諸先輩方のご尽力に加え、関係者や会員の方々のご助力により法人化も達成、ここに本会は名実ともに社会的にも広く認知されるところとなりました。

しかし、そうした間にも内外の情勢、とりわけエネルギーや環境にまつわる状況の変化は顕著で、このままではさらに状況は悪化していくものと懸念されています。現に、このところの大幅な原油価格の上昇は、我々の日常生活に少なからざる影響を与えつつあるほか、世界的な需要の拡大傾向は、他方で将来の安定供給への不安を抱かせています。

そうしたなか、他方では今年も梅雨明けを前に日本各地で集中豪雨に見舞われ、人命も含め多大な損害を被りました。こうした度重なる洪水はもとより、世界各地で頻発する干ばつや猛暑、竜巻、暴風雨といった異常気象現象は、見方次第では世界的な環境劣化の兆候のひとつと見ることもできます。いわんや環境劣化はエネルギー問題に直接的かつ間接的に深くかかわっているだけに、エネルギーに大きな関心を持つ我々にしても看過するわけにはいかないでしょう。

今後も我々が生きられる場の確保を希求するなら、我々のこれまでの価値判断、考え方、それに行動も含めておのずと環境保全が維持される方向で変えていかざるを得ないでしょう。

■ PV-Netの発展的維持・拡大のために

そうした観点からすれば、我々が現に実践している活動は、時代の要求にかなった実を伴った活動と言えます。今後、本会PV-Netを発展的に維持・拡大していくために会員拡大を図ることが必須であることは言うまでもありません。会員拡大は、同時に太陽光発電の普及・拡大という行為を通じて間接的にエネルギー自立と環境保全の推進を図ることにもなります。かかる行為は単に会の存続を図り、己の利益や欲望を満たすためのものではなく、その背景には、大げさな言い方が許されるならば、社会貢献や自然愛があると言っても過言ではないでしょう。

その意味で、かかる行為に対して我々はなんら臆する必要もなく、むしろ自信をもって目的の遂行を図っていくべきだと考えます。しかも、なんら外部からの圧力や意向に気兼ねすることなく、独自の主張や提言を、より公正・中立的な立場で表明していくためには、当会は経済・財政的にも自立していることが必須要件であり、必要最小限の会員数確保はどうしても必要です。また、より多くの会員数の保持は、それだけ本会の提言や意見に重みが増すことにもなります。

■ さらなる一歩への決意

そうした観点から、私としては、この度代表理事の任を仰せつかったこの機に、PV-Netの活動を全国的に展開できるよう、その組織の改編を進め、会員の拡大を図るとともに、広く開かれた組織として多くの有能な方々のお力添えを得られればと思っています。

また、ドイツやスウェーデンなど欧州諸国の法制に比べ、日本のそれは必ずしも自然エネルギー利用拡大面で前向きの制度になっていないため、折々の機会を捉えて、当該発電システムの運営・維持がより容易になるような政策提言もしていきたいと考えています。これは当然、会員の方々のためになる話ですが、見方を変えればより望ましい方向へ社会を変えていく話にもつながります。

具体的な活動内容の詰めは、各作業の中枢を担う副代表理事各位、ならびに専務理事がまとめ役として担当しています。追々検討結果を会報やホームページなどを通じてお知らせすることになりますが、その際にはできるだけ多くの会員の方々のご期待、ご希望を反映した活動をしていきたいと思っていますので、忌憚ないご意見やご希望等を積極的にお寄せいただければ幸いです。

◆ ◆ ◆

いま改めて思うPV-Netの役割

副代表理事　日江井榮二郎

人類の歴史は約700万年前からと言われる。当時は他の動物と同様に、野山や川・海から自然の恵みを狩猟採取して生活の糧にしていた。夜ともなると、襲ってくるかもしれない様々な動物や気象変化に耐えながら、洞窟の中で生き延びるのは、それこそ命がけであったであろう。

当時は氷河期であり、いまよりも寒冷であったようだ。朝、燦々と輝く日の出を迎えた人々は、どんなにか太陽に崇敬と感謝の気持ちを抱いたことであろう。人と会ったときに交わす「恙無きや」とは、ツツガムシに害されずに元気で朝を迎えられた喜びを含む挨拶だと中学の頃、教えていただいた覚えがある。

およそ１万年前になると温暖な気候となり、その頃、農耕が始められたという。農業により、また牧畜により、人類は食べ物に関する知恵を獲得し、その後人口が拡大の一途となった。ある種の蟻は農耕牧畜に似たことをしているとのことであるが、一般の動物と人間との生活環境は、農耕牧畜により、ますます開いていったと言えよう。

さて、エネルギーはどうであろうか。残念ながらいまだもって１万年前の人類と同様、もっぱら地球が保持している天然資源を採取し続けている。もちろん、人類は農耕と同様に、エネルギーを獲得すべく核融合の研究が行われているが、いまだもって解決されていない。何十年先になるかわからない。早くて来世紀に入ってからであろうという話も聞く。

いま我々のすべきことはエネルギー問題に真摯に立ち向かうことである。現在全国的に環境保全活動ならびに環境教育の推進が叫ばれ、「環境にやさしい」ということを標榜している会社が多くなってきたことを聞くのは喜ばしい。

しかし現実はどうであろうか。たとえば家庭製品の部品が故障したとき、それを取り替えたいと思っても、製造中止となっているために、環境にはやさしくない行為であるとは知りつつも、全部を廃棄せざるを得ない経験をお持ちの方も多いであろう。

このような社会の現状を是正し、環境保全を掛け声だけに終わらせないのは、我々市民の意志ひとつにかかっている。私どものPV-Netの役割たるや、重大なものがある。みなで力を合せて、人類の将来を考えていきたい。

★ご寄付について　～現状報告～

10月半ばに、会員のみなさん宛てにお送りしました「財政基盤強化のための寄付のお願いについて」に対し、10月14日現在、138名の方から、合計約267万円のご協力をいただいております。みなさんからのPV-Netの活動へのご理解とご支援に、厚く感謝申し上げます。決して強制ではありませんが、財源の多様化に向けた移行期にあたる今年度、PV-Netの活動支援に、今後とも、ご協力をお願いいたします。

※次号会報に、ご寄付いただいたみなさんの名前を掲載させていただきます。匿名を希望される方は、お手数ですがPV-Net事務局へご一報ください。

大きな節目を迎えたPV-Net

副代表理事　山下正道

2003年５月24日、東京都渋谷区の国連大学国際会議場に各地の太陽光発電所長260名が一堂に集う、世界初の大規模ネットワークが動きはじめて早くも３年が経過しました。

設立の１年目は、設立準備に携わってこられた方々たちを中心に各地域組織の基礎を固め、各委員会と連携しながらの活動から始まりました。

2004年５月、第２回総会は東京・明治神宮外苑の日本青年館国際ホールに132名が出席して開催されました。１年間、地域で活動してきた９名の会員の方々が理事に選出されると同時に、PV-Netの新しい取り組み・体制はプロジェクト活動を中心に設定されました。

2005年６月、第３回総会が千代田区神田駿河台の明治大学リバティタワーにて開催され、117名の方が出席されました。特筆すべき実績として、トラブル相談室の開設のほか、エコプロダクツや愛知万博への出展を通じて世界へ情報発信を行ってきました。また、PVのグリーン電力証書PV-Greenの事業化が想定より早く実現できました。愛知や宮崎をはじめ、関西や九州ではPV-Greenをきっかけに一気に会員が増えています。

2006年６月24日には、本年２月にPV-Netが特定非営利活動法人（NPO法人）としての認証を受けてから、初めての総会が昨年と同じ明治大学リバティタワーにて新しいビジョンをもとに開催されました。

PV-Netは大きな節目にきています。これまでの地域選出的な部分を改め、熱意のある会員とPV-Netの活動に共鳴し、協力する専門的メンバーで構成するようにし、滞りがちだった部分を改善していきます。

◆ ◆ ◆

PV-Netに寄せる想い

副代表理事　藤田邦彦

巨大なビルの壁に輝くイルミネーション。あちこちの民家にすらも、それは光る。明らかな電力の無駄づかいであるのに、なぜ増えていくのだろう……。

人の心が暗いから？

「肥大都市」に住む人の暮らしから太陽の光が奪われてしまったから……。

公園に立って空を見たとき、さえぎるようにしてマンションが起立している。都心で太陽を見続けることは容易なことではない。暗い心の根っこには手をつけず、夜になると光るイルミネーション。イミテーションとしての光に取り囲まれていることすら人は気づかなくなっている。

少年の日、日光が降り注ぐ原っぱを走り、ギラギラ光る海で泳ぎ、光の揺れる川で遊んだ人は一生涯太陽光のありがたさを忘れない。開放的な感性を育ててくれた太陽に感謝しつつ、そのエネルギーによって「肥大都市」の歪みを少しでも変えたい、と考えるのは自然なことだ。

原発に頼らない電力の自給を果たしたい。

CO_2を排出する火力発電を減らしていきたい。

子どもが安全に遊べる都市空間にしたい。

太陽光発電は、かつての少年の想いと、地球環境に責任を持ちたいと自覚した大人の想いとの対話によって力強く稼働している。

ゆったりと流れる川を船で下っていくと、陽当たりのいい土地には必ずといっていいほど古墳がある。古代人は「風水」によってその土地を選んだという。現代のエコロジストは科学の力によってその場所を選んで太陽光発電を設置している。都市破壊を止めるためにも設置者を増やし、孤立せず手をつないでいきたい。そして無駄な電力を使わない暮らしをしていきたい。

夜は深い闇がいい。その中でこそ、忘れてしまっていた宇宙の彼方からの星の光を「美しい」と感じる自然力が蘇ってくるのではないか……。（PV-Net中部発足会の日につくりあげた詩）

●2006年度部会メンバー

※主任相談員

三役	部	専門部会名	役　職	氏　名	メンバー（相談室は相談員）
山下正道	会員サービス部	相談室	座　長	國井範彰※	小西健司、石渡饒一、松本岩樹、渡辺正己、松田廣行、岸本次夫、川原山浩一、古川 元、横谷公雄、森 純男、南里 弘、都筑修三
			副座長	本多一民※	
			主任相談員	湯浅直樹、平間稔夫	
		普及広報部	座　長	鈴木昭男	高柳良大、古川 元、副島 務、井上義久、番場祥充、新原和俊
			副座長	三浦悦夫	
			副座長	松田廣行	
		組織部	座　長	田中東紀男	宮崎英昭、大友 哲、鈴木昭男、坂本勇夫、吉田幸二
			副座長	松隈一輝	
都筑 建	財政事業部	財政事業部	座　長	関沢ひろみ	吉永光伸、新井裕司（オブザーバー）
			副座長	岸本康子	
		PV-Green事業部	座　長	都筑 建	畑山 茂、関沢ひろみ、原 広司、板井孝子、國井範彰、飯島一彦、須藤貞夫、山下正道
			副座長	坂紘一郎	

特集 実績の上がるPV-Green

～住宅用太陽光発電で初！グリーン電力として認証されました！～

今年5月と8月、いよいよ、昨年スタートしたPV-Green（太陽光発電システムのグリーン電力証書化）に先駆的に参加した初代ファームと、2005年度第１期のみなさんの１年間の発電実績（自家消費量）分が、グリーン電力認証機構によって認証されました。PV-Netが日本で始めたこの取り組みが、いま、PVシステムの普及施策の一手法として注目を浴びています。その先駆的な例が佐賀県の「佐賀県太陽光発電トップランナー推進事業」です。設置補助が主流であった自治体のPV普及施策において、設備（kW）ではなく、発電量（kWh）に応じた支援策は、滋賀県の売電電力量への上乗せ補助に続き、とてもユニークな内容で、他の自治体からも問い合わせが続いています。

今回の特集では、PV-Green事業の実績と佐賀地域からのレポート、計量法をめぐる現状と今後の対応についてのレポートをお届けします。

第１部 ★ 実績報告

■設備認定件数、電力量認証等の状況

【発電設備認定】

○発電所数：421件

○設備容量：1,729kW

【発電電力量認証】

○発電所数：175件/421件

○認証済み発電電力量：302,321kWh

○自家消費率(確定分)：約44%

■証書の販売状況

PV-Netならではの「地域特産」のグリーン電力証書が大変人気です。気軽に活用できる地元の環境イベントなどでPVグリーン電力証書を購入いただけるよう、全国のPV-Netの会員のみなさん、是非ご紹介ください。販売実績を各地に広げましょう。足元からのPV-Green広報にご協力ください！

●表1 PV-Green販売状況

	購入者	地域指定	活用先	kWhpvg
（2005年度合計）				61,260
2006年度				
1	関西リサイクルシステムズ株式会社	なし	事業所	50,000
2	ap bank	静岡	ap bank fes '06	5,600
3	ap bank fes ミニ証書	なし	個人	1,980
4	バッジ付き（個人売り）	香川	清里スターフェスティバル	20
5	バッジ付き（個人売り）	山梨	個人	260
6	小平市ごみ減量推進実行委員会	東京	小平市環境フェア	20
7	千葉ミニ証書	千葉	個人×7枚	140
8	（株）シー・エヌ・ティ	千葉	再生可能エネルギー2006国際会議	1,000
9	エコネットちくご	福岡	第5回環境フェスタ in ちくご	340
10	（株）メディアミックス研究所	香川	エネルギー＆エコロジー博覧会2007 in 四国	2,000
11	個人	埼玉	個人	3,000
2006年度小計				64,360
2005・2006年度合計				125,620

～グリーン電力証書でエネルギーを選べば未来が変わる～

「グリーン電力証書システム」は、電力の生産者と消費者が手をつなぎ、消費者が"証書の購入"を通して生産者を支援し、自然エネルギーでつくられる電力の供給を増やしていこうとする取り組みです。

PVグリーン電力証書（太陽光発電のグリーン電力証書）を、エネルギーの使い手が購入（環境価値の購入＝エネルギーの選択）することを通して、日本各地で営まれている太陽光発電を支援できるのです。太陽光発電所にとっては証書の売上が売電以外の収入となり、発電設備導入のインセンティブとなります。また、発電電力量を１年に一度確認する必要があるため、発電設備の維持管理にもつながります。

■基金への参加

○積み立ての現状：292,837円

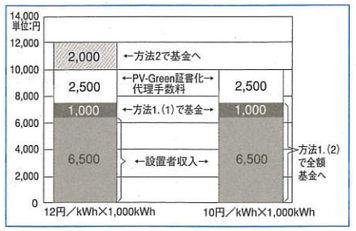
〔内訳〕

05年度預かり分：73,040円

口単位：88,500円（177口）

全口参加：131,297円

●図1 基金の造成方法



PV-Green基金については、PVグリーン電力証書の販売収益の中から積み立てを行っていくことを、PV-Green参加申し込み段階で案内しています。具体的には以下のふたつの方法で積み立てを行っていくことになります。

【方法1】 参加申込書作成時に基金への参加を希望された場合、その内容に応じた収益金をPV-Green基金原資として積み立てる。

(1) 口数単位の場合：500円/口

(2) 全口参加の場合、証書化された交付金額すべて基金へ積み立て

【方法2】 販売収益がkWh当たり10円を超える場合、その差額分をPV-Green基金原資として積み立てる。

PV-Greenの実績について、今後も会報やホームページで報告していきます。

（事務局担当　手塚智子）

第2部 ★ 佐賀県太陽光発電トップランナー推進事業

佐賀県では、県の事業として「佐賀県太陽光発電トップランナー推進事業」が平成18年度に予算化され、太陽光発電所ネットワーク（以下、PV-Net）の事務局でこの事業の業務を引き受けることができました。およばずながら一緒になって活動している地元の一会員として、その状況を報告します。

■事業の概要

佐賀県では、太陽光発電の持つ環境価値のうち、自家消費電力の環境価値についてグリーン電力証書化し、経済的価値として県内で広め、その経済的価値を太陽光発電設置者に還元するグリーン電力証書の取り組みを後押しするため、県が率先して証書を購入することになりました。

具体的には佐賀県が、PV-Netを、証書を発行する委託業者とし、PV-Netから今年度新規に太陽光発電施設を設置した一般世帯に太陽光発電を再委託することになります。そして、グリーン電力認証機構の認証を得た発電電力量を、1kWh当たり40円で県が一括購入し、その代金をPV-Netは実績に応じて再委託金として各世帯に支払うことになります（図1参照）。

佐賀県としては、新エネルギー先進県づくりの一貫としてのこのユニークな事業を通して、住宅用太陽光発電の普及促進を図り、太陽光発電所の設置率において日本一であることを今後も維持し続けたい（トップランナーであり続けたい）としています。

■事業の日程

募集は年間を通して行われますが、グリーン電力認証機構の日程に合わせるため、締め切りを第１期９月30日、第２期12月28日、第３期４月15日の３回に分けてあります。

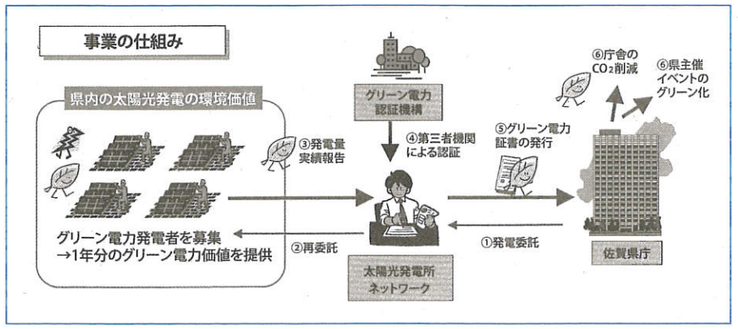
第１期に応募し、設備認定がされた場合、12月上旬に初期値登録、2007年の３月下旬に１回目の発電量等を報告、グリーン電力認証機構の認証を得て６月頃に１回目の再委託金を、また２回目の発電量等を12月上旬頃に報告し、2008年の３月頃に２回目の再委託金を当該発電所は受け取ることになります。

第２期、３期についても期間的には同様な展開となります。

●表1 事業の日程（第1期の場合）

募集締め切り	9／30
初期値登録	12月上旬
1回目発電量等の報告	翌年3月下旬
1回目再委託金交付	6月頃
2回目発電量等の報告	12月上旬
2回目再委託金交付	翌年3月頃

●図1 佐賀県太陽光発電トップランナー推進事業の仕組み



■事業の進捗状況

事務所の設置

この事業について、太陽光発電施設を設置しようとしている方や設置業者の方々などの質問に答えたり、書類の受付を行ったりする基地として、この事業の募集に併せて佐賀市内に事務所が設置されました。この事務所は佐賀地域の会員の基地にもなっています。

事務所の開設にあたって、佐賀県の事業の説明会と併せ開所式が８月20日に行われました。事務局から４名のスタッフと、長崎、熊本、大分の各代表世話人にもおいでいただき、大変賑わいました。

説明会等の実施

募集を開始するにあたり、県の担当課である環境課とPV-Net事務局とが一緒になって報道機関への情報の提供や資料の作成などを行い、募集準備が進められました。そして８月17日に設置業者や各市町村担当者などを対象とした事業説明会を、また８月20日には県内６カ所で一般県民を対象とした事業説明会が実施されました。

説明会では都筑建事務局長をはじめとした本部の４名のスタッフの方々に、事業の概要やグリーン電力証書の意義、申請手続きなどについてわかりやすく解説していただきました。

また、９月29日には、「環境価値を生む『太陽光発電』の普及を目指して」をテーマにセミナーが行われ、募集開始２カ月の経験をもと

9月29日に開催されたセミナー「環境価値を生む『太陽光発電』の普及を目指して」の様子

に今後の取り組み方などについて協議されました。

— 第１期募集開始 —

８月の説明会の実施に合わせて募集要項の配布を始め、第１期の受付を開始しています。

９月29日時点での受付数は約80件で、予想外に出足が遅いと思われます。例年、太陽光発電設備設置件数が950件程度はありますので、今後この事業をいかに県民へ周知していくかが課題と思われます。

佐賀県内にご縁のある方へお願いです。この太陽光発電の新規設置を推進するユニークな事業について、是非積極的にご紹介ください。

（佐賀地域交流会代表　西森秀夫）

第3部 ★ 計量法について ～議論の現状と今後想定される対応～

グリーン電力証書システムで扱われるグリーン電力（環境価値）が、計量法上の“取引・証明”の対象にあたるのではないか、という議論が始まったことを、前号の会報でお知らせしました。

以下、現状のリポートです。

■計量法についての意識調査から

この間、PV-Green事業部では、PV-Netとして対応・提案するにあたり、会員のみなさん及びPVメーカ・住宅メーカがどのような考えをお持ちか、アンケート形式で聞きました（８月実施）。

(1) メーカ（８社中７社回答）

メーカが想定する太陽光発電設置者の反応として、「新たな経済的負担はしたくない」「費用対効果」「屋内景観の阻害」などが上げられ、支援策としては「全額補助」が望ましいとする声が多数でした。

(2) 太陽光発電所長（回答数：489件、配布：1488）

計量メータの設置が義務付けられた場合のPV-Greenへの参加意識への影響と、支援策に対する考え方を聞きました。

問２：PV-Green参加の条件として計量法適合メータの設置が義務付けられた場合、あなたはPV-Greenに参加したい（既参加者は、「参加し続けたい」）と考えますか？

⇒支援策がなければ75％以上の人が参加できないという結果になりました（表1参照）。

●表1

問２	回答数	回答率
義務付けられても参加したい	122	25%
支援策があれば参加したい	302	62%
参加したくない	43	9%
無回答	21	4%
無効回答	1	0%
総計	489	100%

問３：どのような支援策であれば参加したい、または参加し続けたいですか。（対象：問２で支援策があれば参加したいと答えた方）

⇒「全額助成」42％、「半額助成」37％、「低金利融資」15％と続き、８割が経済的補助を求めています。逆に、問２で「参加したくない」と答えた方にその理由を訪ねた設問では、「新たな経済的負担をしたくない」が６割近くとなり、“新たな負担”への懸念が表れています。

■グリーン電力認証機構で合意された基本原則

一方、グリーン電力認証機構では、遵法という基本姿勢を踏まえた上で、以下の基本原則がワーキンググループレベルで合意され、経過措置、特例については継続審議となっています。正式には11／20の委員会で決まる予定です。

●原則：計量法上認められた合格印（検定証印、基準適合証印）が付された電力量計（以下、検定済み計量メータ）に基づいて計測された電力量を認証の対象とする。

●経過措置、特例の論点：

・告知期間・経過期間の基本原則：告知期間・経過期間をそれぞれ何年とするか。

・特例の設定：特例を設ける場合、対象を区切る基準はどのようにするか（例:発電形態ごと、家庭用か否か、設備容量の違い等）。

・特例期間：特例が設けられる場合、適用される告知期間・経過期間をそれぞれ何年とするか。

■PV-Netとしての今後の対応

原則として計量法適用を受け入れますが、特例措置がPV-Green事業に大きな負荷を与えないことが前提です。今後の個々の太陽光発電所に必要となる対応を考えると、特例期間と特例事項で猶予されるパワーコンディショナ（以下、PC）は従来のもので構いません。しかし、期間経過後にグリーン電力証書システムへ参加するためには、発電電力量を計測する検定済み計量メータの追加設置（外付け）、または検定済み計量メータとして認められるPCの導入が条件になります。設備認定の段階では必要がなくても、特例期間が過ぎた時点で引き続きグリーン電力証書化をするには、発電量認証を受ける１年前の段階で計量法検定のものに追加する、または取替えることが必要になります。

新たにPVを設置される場合、11／20の委員会で決定される告知期間後（告知期間が１年であれば来年11月以降の設備認定から）の申請については特例はなく、検定済み計量メータが必要です。

今後、PV-Netとしては、グリーン電力認証機構と経産省に対してさらに働きかけを行っていきます。

（事務局担当　手塚智子）

PV-Netからの政策提言

自然の恵み —— 太陽光エネルギーをもっと豊かに！

事務局長　都筑 建

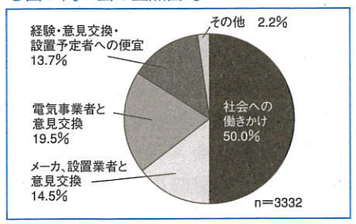
PV-Netが発足する直前、太陽光発電（以下、PV）設置者が交流し、会をつくることに興味がある人、つまり現在の会員の多くの人は、02年秋冬実施のアンケートの「会の重点目的は」という問いに対して図1のような回答をしています。「社会への働きかけ」（50％）が圧倒的に多いこの結果は、単なるユーザユニオンでなく社会への発信を強く求めているネットワークであることを示し、社会性を帯びたNPO法人になる根拠を示していました。つまりPV-NetはPVを通して社会に働きかけることを目的とした人々のネットワークとも言っていいでしょう。

これまでを振り返ると、ネットワークの組織づくりに多くの時間と労力と資金をかけ、貴重な経験と知識情報と全国的な広がりを培ってきました。多くの人が心の底で望んでいる社会への発信という意味では、グリーン電力証書のPV-Greenを世に出したことは事業の面で強いインパクトを社会に与えていますがまだ不十分です。

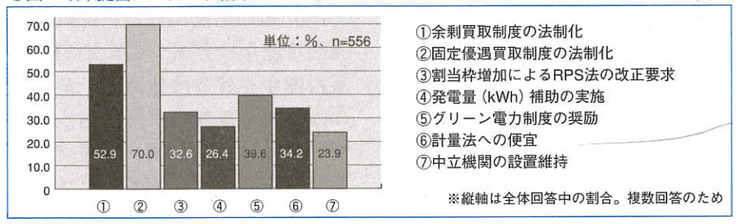
これらを踏まえ、06年７月29日の理事会で日江井榮二郎副代表理事が政策提言担当となり、また、私から以下のような「PV-Netからの提言（案）」を提出し、これをもとに政策提言アンケートを行いました（06年8月配付）。

結果から、固定価格優遇買取にしろ余剰電力買取にしろ、法制化を求める声が大きいことがわかりました（図2参照）。また、膨大な自由意見も一緒に返信されてきました。PVへの愛着と不安と希望を語っていることがひしひしとわかります。これらをまとめ、より具体的なPV-Net政策提言にするべく少人数の「政策提言WG」を設置して作業に入っています。メンバーは横谷（神奈川）、千秋（東京）、吉富（中部）、岩瀬（事務局）と私の４名。この会報が発送される頃にはPV-Netの内部調整を済ませて社会へアピールされているでしょう。

●図1 問3.会の重点目的



●図2 政策提言アンケート結果



— PV-Netからの提言（案）—

1.提言の意義

環境問題や地球温暖化問題に対して会員の多くが危機意識を持ち、PVシステム設置者のネットワークとして社会からも存在が重んじられ期待されている。市民活動をベースにするNPO法人として持続可能な循環型社会をつくるためにも積極的な発言が求められている。

2.どこに対して提言するのか

第一には日本の社会全体に対し私たちの活動実績からくみ上げた提言を。第二にはエネルギー問題を含んだ政策企画施行の国の省庁や地域自治体へ。

3.具体的な提言のやり方は？

エネルギー記者クラブ・エネルギー関連業界紙・環境NGO関連に対して共同記者会見等を行う。また関連省庁には複数名で会見・対話を行い、提言の趣旨を説明して意見交換を行う。地域自治体に対しては地域交流会とともに同様に意見交換を行う。

4.提言の前提

現状では国の2010年PV設置目標482万kWの1/4。よほどの努力がないと到達に至らない。それでなくともドイツなどに累積設置量でも凌駕される状況であり、抜本的な奨励策が必要。さらに25万件以上の献身的なPV設置者がすでに存在することから、その期待を無視することはできない。

5.提言

①PV系統連系の買取価格をこれまでと同じく継続すること

②買取価格を固定優遇価格として法制化すること

③グリーン電力証書の販売に計量法に係る特定計量器の設置が義務づけられるなら、その設置補助を行うこと

④RPS法（注1）の見直しでは固定義務量を大幅に上げること。ただし未成熟なPVに対しては割り当て枠を確保すること

⑤従来のPVシステムの補助では初期設置（kW）への補助となっていたが、PVの進展により有効な設置条件の完備を要求する発電量（kWh）補助を奨励すること

⑥エネルギー選択の拡大するグリーン電力制度を奨励し、ビジネスとしても確立することをめざせるようにすること

⑦⑥の実現のために計量法適合機器の追加設置には便宜を図ること

⑧中立な相談機構の設置と維持を支える方策をとること

（注1）電気事業者による新エネルギー等の利用に関する特別措置法

※以上は、7/29の理事会において都筑より口頭で説明された提言案をまとめたもの。

PV-Net最前線

ソーラー・マイレージクラブ事業について

■環境省のソーラー大作戦

地球温暖化の原因といわれるCO_2排出量の削減が全世界的に急務となっている中、環境省は今年度、太陽光発電（以下、PV）等新エネルギー利用設備の導入を中心とした温暖化対策を行う事業、その名もズバリ「ソーラー大作戦」を大々的に展開しています。

家庭や企業等、主体に合わせた５つの事業で構成されています。そのうちのひとつ「ソーラー・マイレージクラブ事業」は、CO_2排出量増加の特に激しい民生部門で、PV設備等の導入普及と生活スタイルの転換を組み合わせることで、生活におけるトータルエネルギーの削減を「地球温暖化対策地域協議会」（以下、地域協議会、※1）を通じて地域ぐるみで促進していくことを目的としています。PV設備等とは、PVをはじめ、エコキュート、高気密・高断熱住宅など家庭内で取り組める新エネ・省エネの設備すべてが対象になります。

■事業の枠組み

ソーラー・マイレージクラブ事業は、地域の異なる複数の地域協議会とその地域協議会をサポートするセンターとが連携して実施します。

各地域協議会は「ソーラー・マイレージクラブ」と称してそれぞれPV設備等の導入および省エネ生活への普及啓発を行い、クラブ参加者から設備導入前後のエネルギー消費データを収集します。収集したデータはクラブセンターへ送られ、設備導入前後のエネルギーの消費量が検証されます。

ちなみに「ソーラー・マイレージ」とは、地域協議会が実施する普及啓発活動によって家庭で減らすことのできたエネルギー使用量（CO_2換算）のことを言います（ソーラー・マイレージとして換算されるのは今年度になんらかのPV設備等の導入をした家庭だけですが、各地域協議会のソーラー・マイレージクラブにはどなたでも参加できます）。

PV-Netは当事業のクラブセンター業務を受託しました。

■PV-Netが当事業を受ける意義

PV-Netの活動の柱は、持続的で発展可能な社会をつくるためPV導入に関する普及啓発活動、システムの導入・運転時の技術的サポート、PVシステム診断、情報交流・普及啓発を目的にしたイベント開催等です。このような活動を、環境意識の高いパイオニアとも呼べる会員が自主的な活動の中で行ってきました。しかし、３年間の活動を通し、持続的発展が可能な社会をつくっていくためにはPV導入促進を進めるだけでなく、設置者の生活スタイル転換を伴う省エネの普及啓発も行わなければならない必要性を感じていました。このソーラー・マイレージクラブ事業は最近のPV-Netが持つ問題意識と合致した事業と言えます。

■PV-Netの活動内容

PV-Netは当事業のセンター業務を受託し、主に以下に挙げる４つの業務を行っていきます。

1.PV-Net内にソーラーヘルプデスクを開設　⇒　地域協議会からはもちろん、一般からのPV関連相談および省エネ相談に応じられるようソーラーヘルプデスクを開設し、経験を積んだPV-Net相談員メンバーが対応します。

2.エネルギー使用量データの収集と解析　⇒　各地域協議会から送られるソーラー・マイレージデータと環の匠住宅データ（※2）を収集・解析し、省エネに資する情報として地域協議会や一般へフィードバックします。

3.各種情報提供　⇒　PVおよび省エネに関する各種情報、データ解析結果などをホームページを通して情報発信します。

4.ソーラ・マイレージクラブイベントの開催　⇒　当クラブ参加者で優秀な成績を収めた方や地域協議会の普及啓発の成果発表等を行い、評価、交流の場を提供すると同時に、一般市民への省エネ対策普及啓発につながるイベントを開催します。

３月に予定しているソーラ・マイレージクラブイベントへ、みなさん是非参加してください。

（ソーラーマイレージ事務局担当　伊藤麻紀）

※1「地球温暖化対策の推進に関する法律」（平成10年法律第117号）第26条第１項の規定に基づき、地方公共団体、都道府県地球温暖化防止活動推進センター、地球温暖化防止活動推進員、事業者、住民等の各階各層が構成員となり、連携して、日常生活における温室効果ガスの排出抑制等に関し必要となるべき措置について協議する場として組織したもの

※2　平成17年度環境省事業「二酸化炭素排出量削減モデル住宅整備事業（環の匠住宅整備事業）」にて補助を受けた住宅

災害時、住宅PVをどう活用するか ―太陽光発電と防災【初級編】

■いざ停電になったら

大地震や台風により停電が長期化するときに備えませんか？　そのためには普段から災害を想定したシナリオを描き、機器の操作に習熟することが大切です。太陽電池が一定以上の電力を安定出力すれば、住宅用パワーコンディショナ（以下、PC）は停電時にも最大1500Wの電力を生み出してくれます。（社）日本電機工業会（JEMA）の調査では、88%の既存PCに自立コンセントがあるそうです。まずはこのコンセントを探し、メーカの取扱説明書を再読してみてください。

■自立運転で何ができる？

情報があれば慌てずにすみます

自立コンセントの電気でラジオやテレビから情報を得れば、身辺の状況がわかります。携帯電話を充電すれば家族や親類と連絡を取ることができるかもしれません。

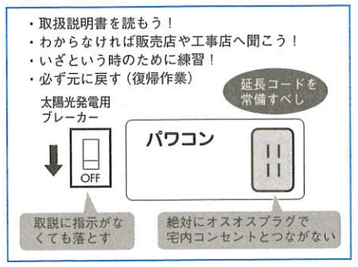
衛生と食は私たちの命を支えます

電気ポットにお湯が沸けば、赤ちゃんの哺乳瓶やコンタクトレンズを消毒することができます。冷蔵庫が動けばインシュリンなどの医薬品を預かることができます。新潟の震災では炊飯器でご飯を炊いた人もいたそうです。

電気はお年寄りや身体に障害がある方に便宜を提供します

電動ベッドの操作や電動車椅子の充電に、さらには、自分の家族に限らずご近所にも便宜を提供してあげることができれば、どんなに素晴らしいことでしょうか。ご近所のヒーロー、ヒロインになれるかもしれません。

●図1 自立運転のポイント



■実際に練習！

使い方がわからなければ宝の持ち腐れです。また、前掲のような活用シナリオは状況によって柔軟に変えなければなりませんし、日射が不安定なときの出力変動には手を焼くことでしょう。だからこそ実際に自立運転操作を練習して、自宅PVの癖や操作をつかんでおきましょう。

①安全の確保

どんなに便利な電気製品も、不注意な取り扱いをすれば事故の原因となります。多くの常識人は電子レンジで猫を乾かしたり、洗濯機で赤ちゃんを洗うことはしないでしょう。同様にPCの操作にも常識として知っておきたい注意事項があります。

太陽光発電ブレーカーを遮断する（推奨事項）

ほとんどの機種では連系を断ち切らないと自立運転モードに入りません。もしメーカマニュアルになくても、不慮の事故を防止するためにもこのブレーカーを遮断することを推奨します（PVのブレーカーにはその旨をシールなどで表示しておきましょう）。

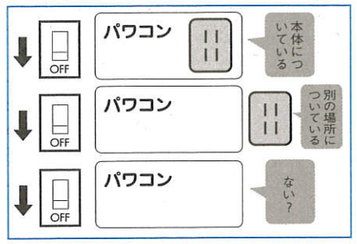
絶対にオスオスプラグで自立コンセント～宅内コンセント間を接続しない（禁止事項）

このイタズラは単独運転という重大事故を起こす原因となります。普通は思い及ばない行為ですが、非常に危険なため、あえて注意を喚起します。

②実際に自立運転をする！

取扱説明書に従ってPCやリモコンを操作します。自立コンセントにつないだ電気機器が動けば大成功。モーターやブラウン管テレビは起動時に大電流を必要とするため、練習には携帯電話などの小電力機器を接続し、少しずつ大きなものを試すことをお勧めします。

●図2 自立コンセントとブレーカーの場所



③ひと工夫で分かりやすく！

いざというときに家族のだれもが操作できるように、操作要領のコピーをPCやリモコンのそばに貼るとよいでしょう。操作が複雑な機種をお持ちの方にお勧めです。

■防災基地オーナーとして

ここまで読んで「なんだか面倒臭そうだなぁ」という感じをお持ちの方もあると思います。簡単便利というメーカや業者の謳い文句は、自立コンセントの活用には当てはまらないでしょう。ややこしいものはややこしいのです。思い込みを排除してじっくりと学んでいきましょう。住宅PVオーナーは防災基地オーナーでもあるわけです。想像をたくましくし、今後の取り組みを考えていきましょう。

一方、世の中のPVには独立型などまだまだ多くの形態があり、上掲の防災活用はほんの一例でしかありません。現在、中部と静岡の交流会は「PV防災プロジェクト」を発足しており、防災を通じたPVの公益活用の可能性を模索しています。会員のみなさんからのアイデアをお待ちしております。

（中部地域交流会　吉富政宣）

3000名、そして１万名体制の実現をめざして

■会員数拡大は永遠の課題

太陽光発電所ネットワーク(以下、PV-Net）は設立以来４年目に突入し、早くも半年が経過しようとしています。ホームページの「太陽光発電所マップ」(2006年９月29日現在）によると、全国の会員設置者数は北海道から鹿児島県まで39都道府県におよび、会員不在は７県（青森県、秋田県、島根県、徳島県、愛媛県、高知県、沖縄県）のみとなりました。ネットワーク参加人数は1601人に達しております。

この会員数を早期3000名にし、さらに１万名体制を実現するためには、各地域の積極的な取り組みでさらなる創意工夫と総力展開が必要となっております。

すでに会員として活動されている1601名のみなさんの周辺には、太陽光発電システムを設置していても、情報がないためにまだ会員になっていない方が大勢おられるはずです。また、今後設置を考えている方も大勢おられます。

■ポストイン訪問活動でネットワークづくり

最も身近で、気が向いたらいつでもひとりで活動できる方法として「ポストイン訪問活動」があります。みなさんの自宅の周辺で、通勤や買い物の行き帰り道に車窓から見える設置者の家があったら、是非訪問してみてください。太陽光発電所長同士という共通の話題だけで、いままで全く面識のなかった未知の方でもすぐに打ち解けて話の糸口ができるのです。

訪問の際のツールとしては以下のものがあります。

・簡易版リーフレット
「わたしたちが太陽光発電所長　青い地球をこどもたちに」
・チラシ
「太陽光発電所ネットワーク　活動の紹介とご入会のお誘い」
・「PVカルテ－太陽光発電システム基本情報－記入の手引きとお願い」
・リーフレット
「PV-Green太陽光発電のグリーン電力証書は世界の環境とあなたのお財布のためにもうひと肌ぬぎます!」
・リーフレット
「輝け! われらの太陽光発電所」
・「入会申込書（FAX・郵送用）」
・「PV-Green」参加のための手続きの手引き
・イベント予定があれば「案内チラシ」

以上のツールは順不同で、相手やそのときの状況によって適時変わります。

全国の会員のみなさまが、それぞれの地域において１人１件ずつの新規会員の入会を実現していただければ、その時点でたちまち3000名の会員を確保できます。さらに１人３件ずつ入会を実現していただければ、会員数１万名体制実現です。

実際、私どもの経験から、10人の方に面談すると、そのうち１人は入会されます。１人や２人と面談して相手にされなかったからといって諦めてはいけません。そしてついでに２人、３人入会が実現できると元気が出て、「さらにもう１人！」というように勧誘活動も楽しくなります。

■イベント時の勧誘活動

フォーラムや説明会などのイベントのときも全く同じです。全体会議が終わってから、必ず個別面談の時間をつくるようにします。そして住所別にグループをつくり、個別に質疑応答や具体的な入会手続きを手伝ってください。

これも経験からですが、説明を聞いて質問や疑問がある人は絶対に何らかの興味がある人です。時間がないからと打ち切ったり、面倒がったりしてそのまま閉会するのは絶対禁物です。

できれば、希望者だけを集めた会費制の懇親会や親睦会を開催できれば最高に盛り上がります。イベントに参加されるということ自体、PV-Netへの関心が高い証拠ですので、最高にもてなして丁寧に応対するようにしてください。飛び込み訪問での入会確率は面談件数のほぼ１割ですが、イベントの面談では、時間をかければほとんど全員が入会しています。

最後に、会員になるとどんな特典があるかの質問には、私はこのように答えています。

「PV-Netの会員数が増えることによって、いままでできなかったことも実現がしやすくなります。設置者の権利も発言力も強くなって、もっともっと有利になるはずです。」

会員のみなさん、どうか自信と希望をもって、堂々と、楽しく、会員拡大に挑戦してみてください。

（会員サービス部副代表理事兼静岡地域交流会代表　山下正道）

多岐にわたるPV-Netの活動内容をギュッと凝縮して伝えるチラシ

第１回新エネルギー世界展示会に出展！

PV-Netは、「光と水のエネルギー広場(※)in 幕張」実行委員メンバーとして、10月11～13日「第１回新エネルギー世界展示会」(「再生可能エネルギー2006国際会議」併設展）に出展し、市民の取り組みを世界に発信しました。

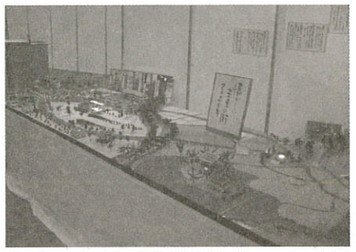
ブースでは私たちが望む2020年「なつかしい未来」の街のジオラマを展示しました。私たちが住みたい街は、太陽光・太陽熱・風力・小水力・バイオマスなどを取り入れた緑豊かな街。省エネと高効率を追求し、自然エネルギー（再生可能エネルギー)で自給も可能です。

技術の粋を集めた製品の展示会場で、ほのぼのとした体温を感じるジオラマ展示は子どもたちにも人気で、唯一のNGO/NPOブースとして注目を浴びていました。

会場では久々の再会を喜ぶPV-Netの会員の姿もあり、研究発表をした方、宮崎や愛知から来場した方もいました。

13日に開かれたシンポジウム「自然エネルギーを市民の手に」では、研究者でありNGO活動家のLee博士からの韓国の自然エネルギー買取義務法の成立のいきさつとその内容の報告、国内の事例として省エネの仕組みを絡めた市民共同発電所づくりに取り組む「かごしま市民環境会議」の事例、定着型の自然エネルギー学校、岩手県葛巻町の「森と風の学校」の報告がありました。会場では自然エネルギーの固定優遇買取制度による支援施策について多様な意見交換がありました。

世界で初の市民発電所長の集まりであるPV-Netからの発信が、今後も生き生きと世界に伝わることが期待されています。ジオラマ作成や展示説明、搬出入など、ボランティア参加されたみなさん、会場で声をかけてくださったみなさん、ありがとうございました。



光と水のエネルギー広場が展示した「なつかしい未来」の街のジオラマ

※“光と水のエネルギー広場”は、愛知万博の際に結成された、自然エネルギーを市民の立場から推進する仲間たちのネッワークです。

PVを通じた省エネ型ライフスタイルを拡げよう！

８月半ばに実施した「太陽光発電とエネルギー消費に関する実態調査」に、なんと600通にも上る返信がありました。「太陽光発電を通じた省エネルギー型ライフスタイル普及啓発事業」として行われた今回のアンケートの結果から見えてきたことは、省エネ行動を実践している家庭が非常に多いこと。その一方で、一般家庭に比べ電力消費量の多い家庭も少なからず存在しています。

PV-Netでは、PVを設置し、さらにトップランナーとして消費エネルギーの削減に取り組むライフスタイルを“カーボンフリーライフ”と位置づけ、トップランナーの実態について丁寧に調べます。そしてこれらの成果を、来る12月２日に開催するイベント「太陽光発電を通じた省エネルギーライフスタイルを拡げよう！」で発表します。

このイベントをPVと省エネライフスタイルに関する具体的な事例や極意について実践者の生の声を聞き、共有し、社会へ力強く発信し、“カーボンフリーライフ”をぐんぐん拡げる出発点とします。そして、地球温暖化対策としてのPV設置推進による効果の最大化をめざします。乞うご期待ください！

◆活動推進メンバーを大募集！◆

省エネや地球温暖化対策、PV設置者のライフスタイルに関心を寄せるあなた、活動メンバーとして参加しませんか？　PV-Net事務局までお気軽にご連絡ください。

エコプロ2006でのボランティアを募集しています！

今年もまた、「エコプロダクツ2006」への出展が決まりました。「地球と私のためのエコスタイルフェア」の副題から明らかなように、環境意識の高いPV-Netの会員にとっては興味深い展示が盛りだくさんです。

見学をお勧めすると同時に、ボランティアを募集します。

我がPV-Netのブースの前で、PV-Net、あるいはPV-Greenの概要を立ち話する役目です。

会期は12月14、15、16日。会場は東京ビッグサイト（東京・有明）です。

ご協力くださる方は事務局までご連絡ください。東4ホールN－57小間でお会いしましょう！

（普及広報部座長　鈴木昭男）

※「太陽光発電を通じた省エネルギー型ライフスタイル普及啓発事業」は、
(独）環境再生保全機構　平成18年度「地球環境基金」の助成によって実施されています。

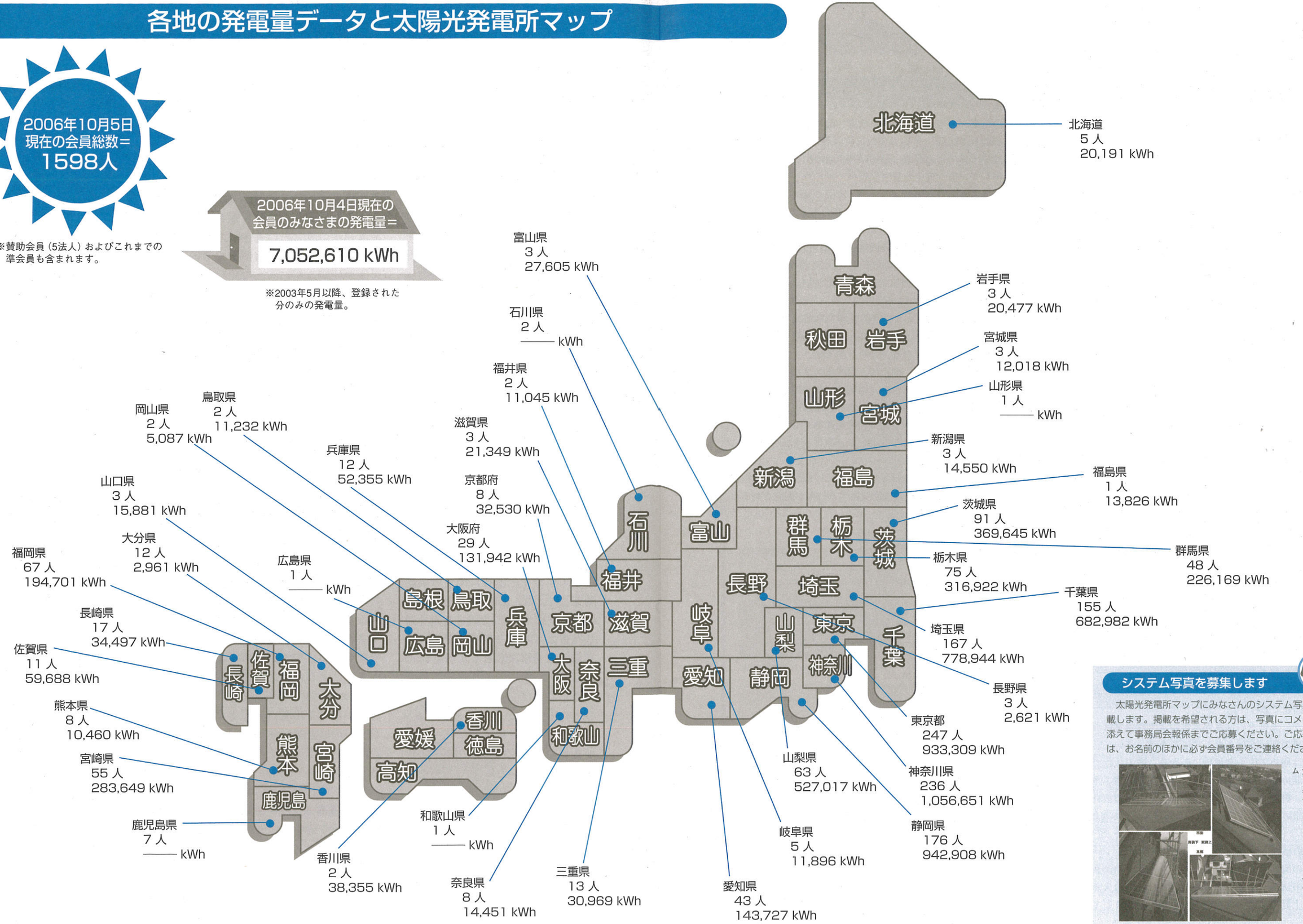
各地の発電量データと太陽光発電所マップ

2006年10月5日
現在の会員総数＝
1598人

※賛助会員（5法人）およびこれまでの準会員も含まれます。

2006年10月4日現在の
会員のみなさまの発電量＝
7,052,610 kWh

※2003年5月以降、登録された分のみの発電量。



システム写真を募集します

太陽光発電所マップにみなさんのシステム写真を掲載します。掲載を希望される方は、写真にコメントを添えて事務局会報係までご応募ください。ご応募の際は、お名前のほかに必ず会員番号をご連絡ください。

←「異種パネルの組み合わせで色々と試行錯誤しています」東京都のH・Mさん（会員番号A06148313）のシステム

会員の広場

Mail Box

日本列島が黒潮の加熱器になっている

【福岡県福岡市・市吉忠三郎】

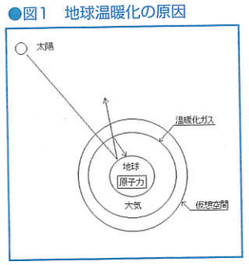
■地球温暖化対策の盲点

地球温暖化が環境の変化として現れている現象は枚挙に暇がない。

地球温暖化と言うと、大多数の人は大気温の上昇と理解しているようである。したがって、地球温暖化の対策としては温暖化ガス削減の議論に偏る傾向がある。国際会議でも同様に見えるが、大きなものを見落としている。

しかし、冷静に考えてみよう。地球温暖化とは、図1に示すように、地球に対するエネルギーの入出力のバランスとして理解できる。入力は太陽光エネルギーであり、出力は太陽光反射や温度放射である。太陽光エネルギーは形を変えて化石エネルギーになり、蓄積されて後日、熱として利用されるものもある。石炭、石油、天然ガスがこれに当たる。

●図1　地球温暖化の原因



見落としてならないのが、質量をエネルギーに変える原子力エネルギー。これは地球に対するエネルギーのバランスを乱すもので100%入力である。つまり、新しく発生するエネルギーであり、入力となるが出力がない。

原子力産業新聞によれば、2002年10月の全国の原子力発電所の発生電力量は約25,000,000MWh/月。原子力発電所の温排水の廃熱量は約65,000,000Gcal/月にも達し、直接、地球を温暖化している。この量は福岡ドーム一杯の水を20℃加温する熱量の3700杯分に相当する。

これに石炭、石油、天然ガス発電の温排水も加えるとさらに2倍近くに増加し、約129,120,000Gcalに達する。このエネルギーは金額に換算すると、毎月約4兆円に達する（資料参照）。これ以上の無駄はなかろう。しかも、公害を世界に撒き散らしており、国際問題になるのは時間の問題であろう。

確かに温排水には水俣水銀のような毒性はない。しかし将来の地球を住めなくする道を辿っていて、その影響範囲は極めて広く全地球にわたる。底の抜けたバケツに水を溜める努力をしている。一般企業の省エネルギー活動は、重箱の隅をつつくものである。電力会社が真剣に取り組めば、電気料金をもっと下げることが可能である。

■求められる発想と新しい技術への期待

この廃熱を流し続けるとどうなるか。熱エネルギーは不滅の法則により消滅しないので、比熱の大きい海水に温度上昇の形で蓄積され、太平洋を一巡りしてくる。その結果、オホーツク流氷の後退、高緯度でも弱らない台風の日本上陸、鬼ヒトデの拡散、熱帯魚の伊豆沖出現、潮位上昇による浸水、島根県沖の鮫の出現等々になって現れている。海中の異常が数多く見られる。鰯が捕れなくなるなどの沿岸漁業の衰退、赤潮の発生によるアサリ貝の死滅等も海水の温度上昇が一因と考えられる。

気象の異常は、温度差が大きい冬季に顕著に現れる。温排水は上昇気流を生み低気圧を勢いづける。東北の今年の異常な大雪にも温排水が加担していると考えられる。このままでは、次世代に残せる環境は悲惨なものになり、人類滅亡の始まりであろう。

対策としては、エネルギーを無駄に排出するのではなく、2度3度リサイクルして、全体の消費量を削減する発想が求められている。ヒートパイプ、ヒートポンプ等の技術を活用して、例えば、温排水エネルギーを空港の滑走路の融雪に利用する、地域冷暖房や屋根の雪を溶かして雪降しの重労働から開放する、温水道インフラを整備する、暖房に利用して灯油代を節約するなど、用途は無数にある。温排水を廃止して、冷排水を出す発電システムにすべきである。

原油の価格変動の影響を受けにくい経済体質が望ましい。エネルギーを質量に逆変換する技術が開発されると、根本的な解決になると思う。

●資料　温排水エネルギーの計算根拠

①全国の原子力発電所の発生電力量
　25,372,722MWh/月を25,000,000,000kWhとして以下計算する。
　（データは原子力産業新聞H13.11.8発行による02年10月の数値）
②熱に換算
　25,000,000,000kWh/月×860kcal/kWh=21,500,000,000,000kcal/月
③廃熱量に換算
　プラント熱効率を33.3%で計算する。
　　廃熱量=21,500,000,000,000kcal/月/0.333
　　=64,560,000,000,000kcal/月（原子力発電のみ）
　原子力以外の火力発電（石炭、石油、天然ガス））の割合を50%とみなす。
　　原子力と火力発電合計の廃熱量
　　=64,560,000,000,000×100/50
　　=129,120,000,000,000kcal/月
④福岡ドームの容積
　1,760,000m³（出典：「Fukuoka Data Web」）
　20℃加温するために必要な熱量をHとすると
　　H=1,760,000×20℃×1,000,000cal/℃m³
　　=35,200,000,000,000cal
　　=35,200,000,000kcal
⑤何杯分になるか
　Kとすると
　　K=129,120,000,000,000/35,200,000,000
　　=3,668杯分/月
⑥廃熱量の金額換算
　129,120,000,000,000kcal/月の廃熱量を金額に換算すると
　　860 kcal/kWh
　25円/kWhで計算すると
　　860/25=34.4kcal/円
　となり
　　129,120,000,000,000kcal/月/34.4kcal/円=3,753,000,000,000円/月

【結論】毎月、約4兆円相当の熱が無駄に捨てられ環境を破壊している。

モンゴル、ゴビ砂漠での太陽光発電実験視察記

【小西健司、臼井國雄】

ウランバードル駅で、モンゴル側実験スタッフでモンゴル国立大学の先生オトゴンバヤルさん、科学技術大学の学生2名が加わり、総勢15名となる。ジーゼル機関車2台で27、8輌を引っ張る長い列車で、ウランバートルを午後4時に発ち、夜通し砂漠の中を走り、午前2時頃サインシャンド駅に着き、そのまま夜明けまで寝台車内で待機した。

夜明け7時頃、サインシャンド気象観測所のチュルテム所長代理が3台の車で迎えにきてくれ、すぐ分乗して市内のレストランへ向かった。全体が薄茶色の砂っぽい街で、主要な道路は舗装されているが、ひび割れ、凹凸、車も中古車風なのでガタガタという印象で走り、レストランに着く。そこで朝食をとり気象観測所に向かった。気象観測所は街から2kmだが、街を出てすぐ舗装もなくなり、自然の砂漠の中に轍の跡が道となっていた。

観測所は辺りに何もない平らな砂地にあり、敷地は約50m×100m。2階建ての事務棟が右寄りにあり、左側に管理人一家が住む小さな住宅がある他は広々としていた。もっとも、辺り一面何もないところだから、広い砂漠の一画を塀で区切ったと言ったほうが当たっている。

サインシャンド市は札幌より高緯度で標高983m、年間平均気温約4℃、降水日数は20日間、降水量は111mmと少ない。太陽光発電実験設備は敷地中央部の約15m平方の囲いの中にあった。シャープ80W×2台、シーメンス75W×2台、シャープ132W×3台、昭和シェル40W×3台、クボタ37.5W×3台、サンパワー（米）2台、が2列に並んでいた。全て設置方向は南、角度は45度である。春季の風が強く、モジュールが倒れたこともあったとのことで太いワイヤーで四方を固定してあり、日射量計表面北側が砂嵐でザラザラになっていた。

太陽光発電実験設備を前に集合写真の撮影

2002年9月に設置して以来、10分間隔でデータを記録している。モジュール表面には指で擦るとすぐ取れる砂埃がうっすらと付いていたが、砂漠の中だからこれが普通で、特に発電力を阻害するほどではないとのこと。測定装置はモジュールを載せた台箱の中にあり、砂塵の進入を防ぐため防塵布で覆ってある。データはケーブルで事務所に送られパソコンで常時見られるようになっている。産業技術総合研究所の大谷謙仁氏が、ここで採取されたデータを論文にまとめて発表された。その中で、日本の約1.5倍の発電量が得られると述べられている。

遊牧民のゲルに装着された太陽電池

気象観測所では気温、気圧、風向、風力、雨量、日照量、蒸発量、地表温などの気象データを測定している。世界の気象観測点に指定されており、ここでの観測データが世界中に配信されるとともに、即座に他の観測点のデータが見られる。目の前で折から日本を襲っていた台風13号の入った東アジアの気圧配置図を見せてくれた。

この観測所には30名弱、傘下の測候所に2名ずつ、計50名強の要員がいる。印象に残ったのは女性が多く、気象パソコンの操作も測候所の説明も女性であった。

その後、遊牧民のゲルに装着された太陽電池の状況を見学すべく、彼等の居るであろう方角をめざして3台の車で猛烈な砂煙をあげながら茫々たるゴビ砂漠の道なき道に突入した。所々多少の草がある他は砂と礫の大平原で、方向さえ合っていればどこを走っても道になるという状態のなか、約160km砂漠の中を走りまわった。

モンゴルの雄大な自然

群れをなす羊

■モンゴル太陽光発電事情視察旅行概要

―― 埼玉地域交流会・國井範彰

9月16～20日、埼玉会員有志に他の会員も加わり、総勢11名でモンゴル、ゴビ砂漠で産業技術総合研究所等が行っている太陽光発電暴露運転実験の視察、及びモンゴルの太陽光発電・自然エネルギー事情の視察旅行を行いました。この旅行は東京農工大・黒川研究室に在籍するモンゴルからの留学生アジヤバド・アマルバヤルさんの案内により行われました。

モンゴル旅行に参加された方々の旅行の感想などを、埼玉地域交流会のホームページに掲載してあります。

URL：http://www15.ocn.ne.jp/~pv-sai/

●モンゴル太陽光発電事情視察旅行行程表

9／16	13：30	成田出発
	18：40	ウランバードル着（実際は1時間遅れ）
		空港から西へ40kmバヤンツォックトのゲルキャンプに移動、宿泊
9／17	午前	ゲルキャンプでの自然エネルギー活用視察（太陽光クッキング、地中冷蔵庫、太陽光ハウス）
		近郊の遊牧民、放牧見学、乗馬体験
	午後	ウランバードルに移動、市内見学
	16：30	ウランバードル駅より寝台列車でサインシャンドに出発
9／18	02：00	サインシャンド着、朝まで寝台列車内で寝る
	09：00	気象観測所内の太陽光発電暴露実験場視察、説明、機器点検、データ収集
		気象観測所見学
	11：00	ゴビ砂漠でSHS（移動式太陽光発電システム）を使用する
		遊牧民を訪ねて出発。全行程約160kmの砂漠走行
	夜	再び寝台列車でウランバードルへ出発
9／19	06：00	ウランバードル駅着。ホテルチェックイン後、市内観光、自由時間
	13：00	PVモジュール組立工場（ナショナルREセンター内）視察
		モンゴル国立大学訪問。ショピングタイム
		モンゴル民族音楽コンサート
9／20	07：45	ウランバードル空港出発
	12：30	成田着、解散

茨城地域

～第6回PV－Netフォーラム茨城開催～

太陽光発電設備の理解を深めるため、９月30日（土）、独立行政法人産業技術総合研究所（つくば市）に於いて会員約30人により標記フォーラムを開催しました。

まず最初に同研究所太陽光発電研究センターの加藤和彦氏にPV-Rescue（太陽光発電所故障発見隊）の活動と最新の動向について発表いただきました。ユーザが必要としているのはkWhの経済性で、そのためには「耐用年数の延伸」等が必要であり、この課題の解決の糸口としてシステム性能検査技術を確立するためにPV-Rescue活動の取り組みを開始したという話や、実地調査を行ってコネクタ外れを発見した例などの紹介がありました。

次にワーカーズコープ・エコテックの外谷富二男氏からPVシステムの性能維持について発表いただきました。長年の運用を行った太陽光パネルに看過できない変化が生じてきている例として、裏面の充填材、EVA剥がれ、半田ボール等についての紹介がありました。

３番目に、茨城地域交流会世話人小西健司さんから、発電量経年変化の確認などについて発表があり、最後に茨城地域交流会代表前川淳治さんの挨拶で閉会しました。

（茨城地域交流会世話人　大塚寿生）

発表者、参加者で記念撮影。閉会後のフォーラム会場で

群馬地域

～「見学会を兼ねた(？)温泉ツアー」参加者大募集！～

PV-Netの仲間のみなさん、いかがお過ごしですか。PV-Net群馬地域交流会の梅澤です。「天高く馬肥ゆる秋」に入り、何を食べてもおいしく感じられる季節となってまいりました。

さて、PV-Net群馬地域交流会恒例の「見学会を兼ねた（？）温泉ツアー」が今年もやってまいりました。日時は11月26日（日）～27日（月）。場所は温泉番付東の横綱、草津温泉です。見学項目は温泉熱利用・水力発電・八ッ場ダム建設現場見学などなど、ちょっとシュールな話題も含めて盛りだくさんです。

ちなみに草津温泉のある吾妻郡は４つの酒蔵（貴娘・広盛・金星・浅間）、２つのワイナリー（沢田・塚田）があります。また、Ｊリーグ２部「ザスパ草津」のホームです。お好きな方には応えられないエリアですね。

さてさて、晩秋の風情をとどめる草津。オフシーズンではありますが、「湯畑」をのんびり散策するもよし。地酒で一杯やるもよし。大地のエネルギー「温泉」にゆっくりつかるもまた一興。

11月26日、集合場所のJR安中榛名駅・高崎駅にたくさんの仲間の顔が見られることを願っています。

（群馬地域交流会世話人　梅澤耕一郎）

千葉地域

～PV-Green電力証書の販売は大変！～

―― 太陽光発電の環境価値を買いませんか!?

「それって、何ですか？」

―― 太陽光発電はCO_2排出が少なく環境にやさしい電力なので環境価値が含まれています。その環境価値部分を証書の形にして販売しています。

「はぁ、それで買うとどうなるんですか？」

―― 通常の電気を使っていても、購入した電力証書の分だけ自然エネルギーで発電した電力で賄ったとみなされます。

「えっ！　意味がわからない。もう一度説明してくれます？」

―― えーっとですねぇ……（さらに説明）

９月３日、幕張メッセで行われた「エコメッセ2006 in ちば」に出展し、小口のPV-Green電力証書を販売したときのお客さんとのやりとりが大体こんな感じでした。グリーン電力証書の購入によって直接グリーン電力を使用したのと同じとする考え方は、まだまだ一般に浸透しているとは言えません。

ただ、社会全体の環境に対する関心は高まりつつあるので、工夫すればもっと買っていただけるのではないかとの感触を持ちました。ちなみに500円（20kWh相当＋バッジ代）のものが７個売れました。

（千葉地域交流会代表　宮下朝光）

「エコメッセ2006 in ちば」におけるPV-Net千葉交流会の出展ブース

埼玉地域

～エリア活動の推進～

埼玉地域では2006年度方針で３つの課題を掲げてありますが、今回は「エリア活動の推進」の状況を報告します。

県内会員が170名を超え、全県単位での交流会は小回りが効き難い状態になったので、以前から検討していた県内の鉄道経路別を基本に、近隣の会員が集まりやすい形に分割して「エリア交流会」の具体化を行いました。

これに先立って新たに５人の方に世話人をお願いしましたので、紹介をします。

大塚博さん（深谷市）、会田眞理子さん（越谷市）、大木唯弘さん（川越市）、松岡洋右さん（ふじみ野市）、桑原紀仁さん（狭山市）の５人です。

この世話人の増強体制で「６－エリア」の交流会が始まりました。すでにこれらのエリア交流会からは何人かのエリアリーダーも誕生し、積極的に活動しています。

今後は近隣のデータ比較や地域自治体との協同活動など、以前より一層の活性化が期待されます。自治体との協同活動は当地域交流会発足当時より取り組んできましたが、今年も秋の環境シーズンに各地の自治体などから環境展への出展依頼があり、世話人総出でその対応にあたっています。

（埼玉地域交流会副代表　宮田卓英）

東京地域

～2006年度前半の主な活動～

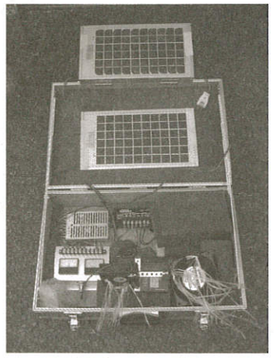
東京地域ではこの９月３日に開催された小平市の環境フェスタに参加しましたが、このイベントはいつもと違い、東京地域では初めて地域交流会でプレゼン等をしてPV-Greenを購入していただいた初イベントとなりました。当日は曇り空でしたが「太陽光でドン！」を行い、80名以上の子どもたちの参加があり、盛況でした。

また、９月30日にはフォーラム東京を開催。お招きした東京都環境局の谷口氏から、今後の東京都の考えとPV-Netとどのような協働ができるかの話があり、とても有意義な会となりました。その後の懇親会では谷口さんにも参加していただき、議論が進み、色々な案が飛び出して会員のみなさまの熱意を改めて感じました。

小平市の環境フェスタにてPV-Greenのプレゼンテーション

最後に、東京地域ではイベント用ツールとして独立型太陽光発電実演装置を作成しました。フォーラム東京でお披露目をしましたが、今後はこれを使った子ども教育なども行っていきたいと思っていますので、ご要望がありましたら東京地域事務局までご連絡ください。

（東京地域交流会代表　高柳良大）



イベント用ツールとして作成した独立型太陽光発電実演装置

神奈川地域

～2006年度の活動予定～

神奈川地域交流会は、15名の世話人と９つの近隣グループに参集してくださる地域メンバーに支えられて地道な交流活動や普及啓発活動が継続され、おかげさまで地元（関係者の間）でも多少名前が知られる存在となってきました。

しかし、これに満足することなく、いま以上に多くの会員が楽しみながら、より充実した活動に参加できるよう、今年度から新たに分科会活動を開始することにいたします。

現在創設を検討している分科会として、①自然エネルギーグッズ製作コース、②エコロジー生活実践コース、③環境教育・普及促進活動コース、④データ分析・研究コース、⑤事業化検討実践コースの５つがあります。内容について現在企画立案中のため、詳細は後日お知らせいたしますが、それぞれのコースに興味を持った人が集まってものづくりや屋外活動、子どもたちへの教育実践活動などに個々の経験やアイデアを生かして地域活動を行おうという試みです。

これまでPVではあまり出番のなかった会員の方々にも、日頃の趣味（本職？）の腕前をご披露いただいたり、いままで心にそっと秘めていた新たなチャレンジに向けての第一歩を踏み出すきっかけとなれば幸いです。

もし、この分科会活動について何かご要望、ご提案がありましたら、是非お知らせください。

(神奈川地域交流会代表　野村安子／電話：0466-87-5682)

山梨地域

～見学会の開催とイベントへの参加～

７月15日（土）、甲府市南部市民センターで見学会とPV-Green説明会を開催しました。事前に案内を270名に送付したにもかかわらず、参加者は９名でした。

みどりの学校の芦澤公子さんによる説明のあと、発電設備を見学しました。この設備では、パワーコンディショナの累積発電量以外に回転式の電力量計も設置して計量法に対応しています。この設備はグリーン電力基金の助成金をもらって設置されました。

７月29～30日は、「第20回牛乳パックの再利用を考える全国大会」が甲府市総合市民会館で開催されました。山梨地域交流会では「もったいない展示コーナー」に出展しました。PV-Net以外にも多くの市民団体や企業の展示コーナーがありました。今回、山梨地域の全会員に参加を呼びかけ、世話人以外にも会員の前嶋さんご夫妻、秋山さんがお手伝いくださいました。

30日は、朝から第一分科会「もったいないじゃん　ぐるぐるまわして使うじゃん」に参加しました。２

日目も展示を行いました。

展示内容は、PV-Netの取り組みや設立の趣旨・目的、PV健康診断についてなどです。それらに加えてPV-Green事業についての紹介を行いました。またミニグリーン電力証書の展示販売も行いました。そして3名説明した内の1名に証書をお買い上げいただきました。証書をお買い上げいただいた理由は、佐賀の取り組みを新聞記事でご覧になられたからです。全国組織のPV-Netとして出展するということは効果がありました。

（山梨地域交流会代表　大友　哲）

甲府市南部市民センターの太陽光発電所

静岡地域

～静岡地域連絡会の活動～

静岡では昨年度1年間で約100名の会員拡大ができました。それにはいくつかの要素がありますが、主要なひとつはグリーン電力証書の取り組みが大きな力となったことです。自治体とタイアップして計画した説明会に参加してくれた方の多くが会に加入しました。

ふたつめは各種イベントへの出展で多くの方と繋がりができたことです。とりわけそこで知り合った設置業者との付き合いを大切にしてきたことにより、業者が設置者を紹介してくれたり、自ら説得してくれるなどの協力を得ました。

昨年度の目覚しい活動に比べると、今年度は出足が鈍ってしまった感は否めません。動きが止まった最大の原因はグリーン電力証書の計量問題にあります。あの問題が表面化したことによって、自信を持って勧められない状態が続いてきました。

しかし、ようやく2回目の登録者に交付金額が明示されたことでこの問題をクリアー、自信を持って次に進めます。当面、静岡県「環境森林フェアー」への出展（使用する電気はグリーン電力証書）、沼津地区での「近隣グループ」の立ち上げなどが計画されています。

（静岡地域交流会副代表　田中東紀男）

中部地域

～みなさんこんにちは！～

私たちは、5月14日に「フォーラム in 春日井（地域交流の立ち上げ準備会）」、6月23～25日に万博後継イベントへの＜光と水のエネルギー広場＞参加、7月9日に「PV防災プロジェクト」、7月30日に愛知県田原市でのエネルギーフェスタでPV-Netのソーラータウン展示、9月5日・27日にPV防災打合せ会を行いました。

目下のポイントになる活動は10月28日の「フォーラム in 多治見（岐阜県東濃地方での近隣交流会の立ち上げ）」の開催準備です。

防災プロジェクトでは、予想される“東海・東南海地震”でのPVを、個人レベル・コミュニティレベル・自治体のエネルギーインフラとしてどう活用できるか、緊急連絡・医療、防災拠点、災害避難所……と被害の拡大を防ぎ、適切な防災対策をどう図るか、PV-Netの知恵と工夫を集めようとしています。

PV防災プロジェクトの様子

愛知、岐阜、三重、長野（のみなさんご無礼になって申し訳ありません）の4県をカバーする中部地域交流会ですが、県ごとの地域交流会・近隣での交流会と、身近な会員同士の交流を大切にすることを基本に、県や市行政に対応した運営と世話人活動を進めようとしています。また、PV-Net会員の藤田さんのPV日照被害と裁判も佳境、みんなで応援しています（会報9号P15掲載記事参照）。

月1回のペースの世話人会ですが、終わったあとの飲み会もにぎやかです。9月は“重陽の節句”をテーマに、PVと菊、九重を語り合いました。

（中部地域交流会世話人　三浦悦夫）

関西地域

～「ポストルック」それって何？～

正確には「NPO法人 太陽光発電所ネットワーク」に未登録の発電所の名前を記入する用紙名です。ちなみにネットワークに登録されている兵庫の発電所は神戸5人、姫路1人、高砂3人、多可郡1人、三田2人の計12人です。

私は2002年7月に設置した者ですが、たまたまネットワークの会合に参加する機会があり、日本一の設置者数を誇る兵庫県の会員数の少なさにびっくりし、フォーラムの立ち上げにかかわりました。

①フォーラム立ち上げに向けて私がしたことは、屋根を見上げてパネルを確認し、事務局に報告すること。その報告の過程でポストルックに出会いました。

②7月27日から歩きはじめ、8月14日からは70歳からの優待乗車証が威力を発揮してくれました。全区の最新行政地図を手に、まず、行きにチェックしながらバスの終点まで乗り、帰りに発電所を見つけた駅で降りることを繰り返し、神戸市全区に100名以上の発電所を確認して案内状を送ることができました。

とにかく屋根を見つめて歩いて、歩いて、歩きました。この歩く活動は私の視界を広げてくれました。70年間一度も経験したことのない、足の裏にまめができるという不思議な体験をし、また見知らぬ町並みを見、新たな知的好奇心を呼び起こされました。

③ドジもしました。2軒続きで設置されているのに「あった」と喜んで体を少し動かしたためにパネルが見えなくなり、後日に気がつくというようなことです。

④自分の住んでいるところをくまなく歩きまわる発電所探しは大変な作業ですが、また、いままで気づかなかったことにも気づき、心を豊かにもしてくれました。長年行ってみたいと思っていたところに行き、気のつかなかった風景に出会い、日頃考えたこともないことを考える時間を与えてくれました。

「発電所長さん」、自分の街を一度くまなく歩いてみませんか！この2カ月の歩く生活は「骨折り損のくたびれもうけ」だけではありませんでした。

（関西地域交流会世話人　野村光正）

佐賀地域

～佐賀県太陽光発電トップランナー推進事業を受託～

佐賀県では、今年度から県の事業として「太陽光発電トップランナー推進事業」がスタートしました。PV-Net本部ではこの事業を引き受けることを念頭に佐賀県の私たちの組織を育ててくださっています。事務局長の都筑建さんや九州地域事務局、再生可能エネルギー推進市民フォーラム西日本（以下、REPW）の小池寿文さんをはじめとし、各方面から強力なバックアップとご指導をいただいて5月20日に第1回の交流会を行うことができました。また7月8日にはPV-Greenの事業説明会も実施していただきました。

8月20日の開所式に集まっていただいた方々

県の事業については5月24日にコンペがあり、都筑事務局長の意気込みと提案の具体性と素晴らしさにより、めでたく指名を受けました。

PV-Netがこの事業を引き受けたことにより、PV設置を考えている人や設置業者の方からの質問や相談等に応じるためのヘルプデスクが必要となりました。事務所も開設することになり、事務員として中山晴美さんに対応していただくこととなりました。大分の代表世話人木村紘一さん、熊本の代表世話人福田精二さん、長崎の代表世話人都筑修三さんにもおいでいただいております。

会員は増えつつありますが、佐賀県の世話人としてはみなさま方の強力な御支援に対し、会員数をさらに拡大させる以外に応える方法はないと考えているところです。

（佐賀地域代表　西森秀夫）

九州地域

－長崎地域－

～会員の拡大が第一目標！～

3回の慌ただしい準備会で7月15日が長崎地域交流会の立ち上げ日と決まりました。もちろん、全国事務局と九州地域事務局兼REPWの小池寿文さんの並々ならぬバックアップがあったのは言うまでもないことです。

立ち上げフォーラム会場を予約してから、とにかくどうやってお客さんを集めるかということで5人の世話役で手分けすることにし、フォーラム案内などのチラシのポストインとポストルックから始めました。世話人さんが県の南部に集中していたので、県北地域までまんべんなくとは行かず、また、五島、壱岐、対馬といった離島までは全く足が届かずでした。しかし、フォーラム開催日の1週間前までにポストインを約800軒、その中からポストルックとしてデータ化できたもの約400軒分が仕上がりました。

マスコミ各社には投げ込みという簡単な方法があるようですが、まずはゼロからのスタートと思い、長崎市内にある支社・支所・ローカル合わせて全12社に顔見せのご挨拶を兼ねて記事掲載・放送と当日の取材依頼申し込みに回りました。結果として、電話やメールでの問い合わせ、アンケートはがきの返信が全部で15件、フォーラム当日の参加者は17人でした。

ポストインをして最も感じたことは、ほとんどのユーザが自宅の屋根の上の発電所のことには、こちらが信じられないほど見事に無関心であるということでした。PV-Netの前途多難な悪路が、私には地平線の彼方まで続いているように見えます。だがしかし、だからこそ、それだけの活動の価値と働き甲斐があるのだとも思えます。

交流会を立ち上げてまず、何よりも会員の拡大が第一目標だと思います。月に一度7人のメンバーで世話人会を開いていますが、なかなか効率のいい会員拡大案が見つからず、とりあえずグリーン電力証書の説明会を10月29日に開こうじゃないかと決定したところであります。みんなで力を合わせて一歩、そして、一歩。丁寧にやっていくしかない。

（長崎地域世話人　都筑修三）

－ 熊本地域 －
～立ち上げフォーラム開催～

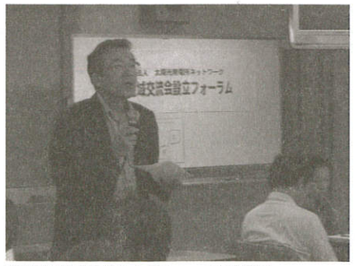
おひさまの光に恵まれた九州。太陽からいただくふんだんなエネルギーのおかげでトントン拍子にことが運び、４月22日の九州広域交流会の立ち上げフォーラムに始まり、佐賀・長崎・熊本・大分・鹿児島と４カ月の間に続々と各地域交流会が立ち上がっていきました。

我々の熊本では６月６日に第１回準備会、７月１日に第２回準備会、そして７月17日に立ち上げフォーラムを開催しました。その間、準備会メンバーが種々の地元環境団体や地元紙で広報に努め、立ち上げには40数名もの方々が参加され、その多くが環境に貢献したいという思いで太陽電池を設置されているとわかり、意を強くすることができました。

さて立ち上げから２カ月、いま小休止しています。立ち上げフォーラムまでは東京の事務局や九州事務局、REPWの手助けで来られましたが、これから先は自力を頼まねばなりません。核となる世話人をどうしたらもっと増やせるか？　少ない活動費でどんな魅力的な会が開けるか？　地域ごとに独り歩きするのか、九州広域交流会を軸にして広域から各地域に還流する方策はないのか？

先行している宮崎を除けば九州の各県は似たような状況にあり、いま九州のみんなで知恵を出し合おうとしています。

（熊本地域代表　福田精二）



熊本地域交流会立ち上げフォーラムの様子

－ 大分地域 －
～地域交流会発足フォーラムを開催～

日　時：平成18年９月２日
午後２時～５時
ところ：大分総合文化センター
参加者：約35名

大分の地域交流会の発足フォーラムを９月２日に開催させていただきました。当初の申し込み予定では７、８名とのことで非常に心配しましたが、事務局長や新聞社等の尽力により30数名の参加となり、発会フォーラムの世話人としては少し安堵しました。

最初はPV-Netの事業案内や今後の活動内容について事務局長から報告があり、これからの事業としてグリーン電力証書の取り扱いが発表され、余剰電力の売電とともに自家消費分もPV-Green電力証書により販売できることが説明され、参加された方々も注目されていました。

その後、２つのグループに分かれ、自己紹介とともに意見交換を行いました。様々な意見が出されましたが、全体に期待するものとしてシステムが正常に動いているのかなど、不安をなくするための相談業務などが、グリーン電力事業とともにPV-Netに期待されている意見が聞かれました。

また、ひとつの意見ではありましたが、ただ省エネとしての利用だけでなく、農家などの経営の中で発電事業ができるようになれば、農産品も安定した価格で提供できるので、是非推進してほしいという意見もありました。

（大分地域世話人　木村紘一）

大分地域交流会発足フォーラムの様子

－ 鹿児島地域 －
～鹿児島地域交流会立ち上げフォーラム開催～

８月26日、鹿児島市の中央公民館に於いて都筑事務局長を迎えて「太陽光発電所ネットワーク鹿児島地域交流会設立フォーラム」が開催され、その後懇親会がありました。趣旨や目的に賛同はしているものの、九州各県に地域交流会を設立するという大波に飲まれたようなあたふた感がありました。

実は鹿児島で４年前に自然エネルギー学校を開催した折、市民が自然エネルギーに取り組むには公平で中立な情報が是非とも必要だという声が多く出されました。そのときPV-Netの構想があることを講師の一人だった都筑さんから聞いたのです。その後、市民共同発電所に取り組み、毎年１機ずつ建設してはいたのですが、鹿児島県内の発電所のオーナー同士のつながりに、いまたどり着いたということになりますね。

設立メンバーからは「早く40名の会員を集めましょう」という頼もしい声が上がり、空を見上げて歩きながら、ポスティングに励んでいます。会員同士の交流を深めながらPV-Netの活動内容を理解し、自然エネルギーの普及に取り組んでいきたいと考えています。

よちよち歩きですが、全国、そして九州のみなさん、よろしくお願いいたします。

（鹿児島地域代表　村山雅子）

宮崎地域
～出前授業を積極的に実施～

本年はPVの普及・啓蒙活動のために積極的に小・中・高等学校の出前授業に行きました。

１月：西都市児童館にてソーラーカー製作、楠見事務局長による環境とエネルギーの講演、省エネクイズ、ソーラーカー競争を行いました。

２月：県立宮崎工業高校、佐土原工業高校でソーラーカー製作を行いました。

７月：倉岡小学校で出前授業を行いました。

９月：都城市立庄内中学校の「おやじ・おふくろ学級環境学習会」に参加、同じように講演、省エネクイズで大変盛り上がった授業を行いました。その後、いつものように屋外にPVグッズを展示し、ソーラークッカーでゆで卵をつくりました。

当日は薄曇りで心配されましたが、時折見える太陽のおかげでゆで上がりました。生徒たちに食べてもらい、太陽エネルギーの威力を体験してもらったあと、感想文を書いてもらいました。その中の一部を紹介します。

―― 私は、みなさんの話を聞いてとても驚きました。太陽と光電池だけで、テレビをつけたり、ラジオが聞けたことです。（倉岡小：横山朋美さん）

―― 僕の夢は科学者なので、大きくなったら太陽光発電など科学を進歩させたいです。（庄内中：石坂研志郎君）

（宮崎地域交流会代表　清水洋香）

都城市立庄内中学校での出前講座の様子

PV-Net川柳 第十回

PV-Net川柳は、十回目を迎えました。PV-Netは、この5月24日から4年目に入りました。この川柳コーナーも、根強い川柳好事家のご尽力によって存続でき、感謝の念に堪えません。

会員も当初の東電関内から全国規模の広がり。このコーナーも全国規模に発展することを願っています。

さて、今回も、貴重な投稿川柳をご紹介します。

①八年目 そろそろパワコン 気に掛けにゃ
（神奈川・川崎の五右衛門）

②月末（つきすえ）の 数値で知るや 季（うつり）の変化

③陽の傾斜 出力表示で 気づかされ
（以上二句、埼玉・的場1号発電所）

④温暖化で 日照時間が 減る不思議　（埼玉・XYZ）

⑤パソコンの 音痴が座長に 成り上がり
（神奈川・川崎の五右衛門）

今回は川柳の好事家とも言うべき五右衛門さんと的場1号さんの傑作だ。

①の川崎の五右衛門さんの投稿の添え書きに、「PV健康診断を活用しましょう」。五右衛門さんが気にするパワコンの耐用年数はパネルより短く、8年以上と言われている。もうそろそろ劣化が気になる頃ですね。健康診断はお願いします。

②毎月の発電量で、季節の移ろいを感じる的場1号さんは俳人だ。異常気象の今年は7月の発電量を見て、もう10月かと勘違いするほど少なかった。8月もしかりだ。的場1号さんは季節通りの発電量だったのだろうか。

③昔から、「秋の日はつるべ落とし」と言われ、「敬老の日」を過ぎる辺りから、日ごとに日没が早まっていくのを肌で感じる。8月中は夕方の7時頃まで出力表示が点灯していたが、9月末には5時でお終いだ。

④二酸化炭素などの温室効果をもたらすガスの影響で地球の温度が上昇するのが地球温暖化で、日照時間には関係ないと思っていた。が、最近は異常気象というキーワードで、雨が多く降るようになった。「雨降り＝日照がない」ということで、発電がさっぱりなのだ。今年7月の発電量は、2001年の半分以下だ。パワコンの所為かな……

⑤五右衛門さんはパソコンを持っていない。PV-Netはパソコンがないと何かと不便だ。が、五右衛門さんは普及広報部の座長になった。句に添えられていたのは「多分に自嘲に満ちた一首。周りの方々のご支援宜しくお願い……」の、文言だ。

PV-Net川柳には、むずかしい講釈は不要です。広い意味で、太陽光発電に関わることを五七五調で生活を詠んだものなら、それでいいのです。ただ、担当者の狭量が問題です。気持ちだけでも「広量な大人物」になりきりたいと思っています。

次回も、このコーナーで、あなたの川柳とお会いしたいですね。

（担当：普及広報部　松田廣行）

【応募方法】名前およびペンネームを明記の上、自作の作品三句以内をハガキまたはEメールなどで事務局宛にお願いします。なお、作品は返却しません。

2005年度第6回理事会

●日時：5月27日（土）
14:00〜17:30
●場所：水道橋 こんぴら会館
●参加者：理事15名、監事2名、評議員1名、事務局3名、オブザーバー4名

5月12日開催の臨時理事会に於いて新地域交流会として承認された九州（広域）地域交流会の小池事務局員より、九州圏内の活発な活動状況について報告がありました。また、総会へ向けた議案書案が審議されました。

中長期計画について、「地域交流活動を全国展開し、それに伴い必要な財源を多様化して財政基盤も固める」という方針案に対し、関東圏を活動の中心の場として大口寄付金に基盤を置き、関東圏外の地域は自主財源化する提案が出されました。後日、話し合いの場が持たれ、その結果をもとに議案書案が作成されました。

また、新年度予算素案について意見交換され、財政部から新年度の課題として組織内の財源調整方法が提起されました。予算案は6月17日開催の臨時理事会にて決定されました。

2006年度第1回理事会

●日時：7月29日（土）
14:00〜17:00
●場所：ふれあい会館
●参加者：理事16名、監事1名、事務局3名、オブザーバー1名

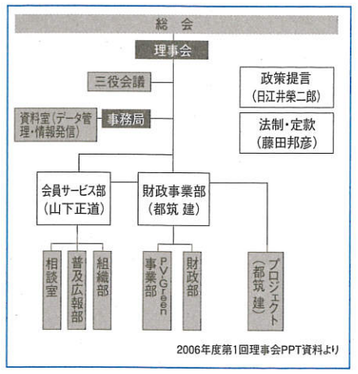
栃木地域交流会の世話人全員が辞任を申し出、同時に地域交流会解散を宣言した件について、地域交流会は理事会等の手続きを経ず任意で解散することはできないことが確認され、世話人不在の栃木の運営は三役預かりとなりました。

また、今年度はPV-Netとして政策提言を行っていくことが合意されました。

審議事項として、全国展開をめざした新組織体制、専門部会の運営体制が承認、受託事業の予算概要が総会後に具体化したことに伴い、主に事業収支関連箇所を補正した予算案が承認されました。

新組織体制は、各専門部会を大局的に見る会員サービス部と財政事業部を柱に、独立部門の法制・定款担当、政策提言担当を設け、それぞれ三役が統轄していきます（図1参照）。また、事務局員の桃井鈴奈さんが6月末締で退職することが報告されました。

●図1 2006年度組織体制



2006年度第1回理事会PPT資料より

2006年度第2回理事会

●日時：10月14日（土）
13:30〜16:30
●場所：湯島総合センター
●参加者：理事18名、監事1名、事務局2名、オブザーバー1名

相談活動の拡大に伴う広域対応に備えた新相談員が承認され、活動が広域になることを想定した地域活動事業の収入、支出、および調整についてルールづくりを行うことが合意されました。

また、山梨地域交流会が八ヶ岳の公民館へPVの市民共同発電を設置するため、グリーン電力基金に応募することが追認されました。

報告事項として、会員のみなさまへお願いした寄付金が10月14日現在、88名のご協力を得て約200万円集まったこと、三役預かりとなっていた栃木地域交流会で新たに代表、世話人、地域事務局を引き受ける意欲あるメンバーが現れ、10月28日にPV-Netフォーラム栃木を開催し、役員選任の承認を得るとの報告がありました。

普及広報部が作成したPV-Netののぼり旗が発表され、希望する各地域交流会へ配付されました。

普及広報部が作成したPV-Netののぼり旗

◆ 新評議委員のプロフィール ◆

○牛山　泉（うしやまいずみ）

1971年上智大学院理工学研究科博士課程修了（機械工学専攻）。足利工業大学機械工学科専任講師、助教授を経て、1985年より教授。1974年工学博士号授与。2006年足利工業大学副学長、現在に至る。

日本風力エネルギー協会会長、新エネルギー財団および新エネルギー産業技術総合開発機構の風力委員会委員長などを務め、2003年科学技術普及啓発功績者として文部科学大臣賞を受賞。2000年グリーン電力基金（GIAC）員会委員、2006年4月日本太陽エネルギー学会会長。

○和田　武（わだたけし）

1963年京都大学工学部卒業、1965年京都大学大学院工学研究科修士課程修了。住友化学工業（株）中央研究所、愛知大学教授を経て、1996年より立命館大学産業社会学部教授。2006年3月より立命館大学産業社会学部特別招聘教授。工学博士。専門「環境保全論」。著書『新・地球環境論』（創元社）、『環境問題を学ぶ人のために』（共同執筆・世界思想社）など。

○中島康孝（なかじまやすたか）

1956年早稲田大学第一理工学部建築学科卒業。1975年工学院大学工学部建築学科教授、2001年早稲田大学理工学総合研究センター教授を経て、現在工学院大学名誉教授、NPO法人建築環境・設備技術情報センター（AEI）理事長。元日本太陽エネルギー学会会長。2000年日本太陽エネルギー学会賞受賞、2001年日本建築学会賞受賞、2005年国土交通大臣功労賞受賞。

普及広報部

高柳前座長が超多忙のため、「パソコン全く駄目」が部員である唯一の存在理由だったはずの私、鈴木が新座長になりました。今後も存在理由を活用し、会議で最新のシステムが話題になると透明人間と化かします。なお、高柳さんは引き続き部員として活動してくれます。

9月13日に今年度第1回部会を開催しました。組織が全国規模にさらに大きくなりつつあることを視野に入れた活動が必要という認識の下、できることから具体的に取り組みます。会報発行は年3回。組織の予定に合わせて、やや不定期の発行になります。

10月11〜13日の3日間「再生可能エネルギー2006国際会議」に展示参加しました。12月には昨年に引き続き東京ビッグサイトでのエコプロダクツ出展も決まっています。本誌P11の参加者募集案内をご覧いただき、PV-Netをアピールするために足をお運びください。

また、普及広報部員増強の呼び掛けをしています。自ら名乗り出る方、大歓迎です。

（普及広報部座長　鈴木昭男）

財政部

2006年度の中長期財政計画にある通り、今年度は大口の寄付がなく、基本財源は会費収入、事業による収益、小口の寄付収入、協賛金収入へとシフトしていきます。そのため、過渡期にあたる今年度の予算は潤沢でなく、予算執行のうち、地域の活動のための交付金も、残高の状況により必要な地域へ支払われているのが現状です。

地域交流会のみなさんにはご苦労をおかけしますが、経費を極力絞っていただくとともに、書籍の販売やイベント時には、会場費、資料代の実費の範囲の徴収など、可能な限り収益を上げていただくようお願いいたします。

PV普及のため、大勢の方に理解を得て会員になっていただくことが健全かつ安定的な会の運営のための重要な手段です。この点でも会員の拡大が必要と思っています。身近な方をお誘いください。

（財政部座長　関沢ひろみ）

相談室

産業技術総合研究所（以下、産総研）の加藤和彦氏が提唱された「PVレスキュー」によるPVシステムの調査について、現在は調査に協力を申し出られた方の予備調査が順次進行中です。予備調査には各地区の相談員が都合のつく限り同行させてもらい、相談員としての経験を積ませてもらっています。予備調査が一通りすめば本調査に移ることになります。本調査の進め方についても産総研と協議しながら取り組んでいく予定です。

相談室の活動には、相談員の増員とレベルアップが欠かせません。主任相談員の増強、関東の空白地区、中部、関西、九州地区にも相談員を増やすとともに、11月には相談員のレベルアップを図るための相談員の研修を行う予定です。

相談室では会員のみなさんの様々な相談に応えられるよう努力してまいりますので、是非相談室をご活用ください。

（相談室座長　國井範彰）

PV-Green事業部

目下、PV-Green事業部で取り組んでいる大きなテーマは3つです。

ひとつ目は「計量法への対応」。PV-Netとして、グリーン電力証書システムに参加したいと思う太陽光発電所長が、だれでも、気軽に参加できる、既参加者にとってもできる限りハードルのない制度となるよう働きかけを進めています。

ふたつ目は「営業活動の活発化」。PVグリーン電力証書の意義や証書購入手続きの方法をわかりやすく伝えるためのパンフレットづくりを進めています。会員のみなさんも是非、地元の環境イベントや所属している団体などでPVグリーン電力証書の活用を働きかけてください。PVグリーン電力証書の活用先の拡大にご協力をお願いします。必要な資料などについてお気軽に問い合わせください。

3つ目の「基金の仕組み構築」については、PV-Green基金委員会の細則、委員会メンバー、基金の運用内容について検討し、具体化していきます。膨大な量のデータ処理が必要なため、情報発信に時間を要しますが、今後も会報やホームページで、PV-Greenの実績について報告していきます。（事務局）

組織部会

10月14日に第1回組織部会が開かれ、組織部の役割やPV-Netの組織の状況について共通理解を図り、広域化に向けた課題を整理しました。そして、今後の組織のあり方、地域活動のサポート体制について話し合いました。

栃木地域交流会で運営を担う世話人会が交代したことなどもメンバーで共有し、広域化、かつ活動内容の多様化に対応していく新たな体制の整備が求められていることを再確認しました。（事務局）

事務局からのお知らせ NEWS

会員更新のお願い

11～4月に入会したみなさん、会費更新の季節（11月末）です！　太陽光発電所ネットワークは、この2月に特定非営利活動（NPO）法人となりました。益々の意義ある活動を展開するにはみなさんの会費が頼りです。頂戴しました会費は、太陽光発電をはじめとする自然エネルギーの普及を促進する活動のための重要な財源となります。なにとぞ、会員更新にご協力をお願いします。

毎年の会費納入の手間を省くことができる自動振替・払込の手続きも受け付けています。会員更新がまだお済みでない方は、下記の郵便振替口座へ年会費3,000円をお振込みください。どうぞ、よろしくお願いします。

※会費お支払い先は、下記郵便振替口座に一本化し、銀行振込口座への受付は終了しました。

○郵便振替：００１９０－７－７５８３３２
○名　　義：太陽光発電所ネットワーク

会報10号·11号でもご案内の通り、PV-Netではご入会の時期（前期・後期の区分）により会員の更新時期（＝会費納入時期）を分けています。この会費納入時期は、会報をお送りしている封筒の宛名シールに「会費有効期限」として記載していますのでご確認ください。会費納入時期は、下の表をご覧ください。

●入会の区分と会費納入時期、自動振替・払込の申込〆切について

区分	入会時期	会費納入時期	自動振替・払込の申込み〆切	
前期	5／1～10／31	5／31	4／10	（〆切を過ぎた場合、今年度会費は振込が必要）
後期	11／1～4／30	11／30	10／10	

会報「PV-Net News」に広告掲載を準備中です

PV-Netの活動に賛同する方からの協賛金収入を増やしていくため、会報やホームページへの広告掲載を具体的に検討しています。広告の掲載団体等についてもお勧めがありましたらお気軽に連絡ください。

ペンギンのはばたき

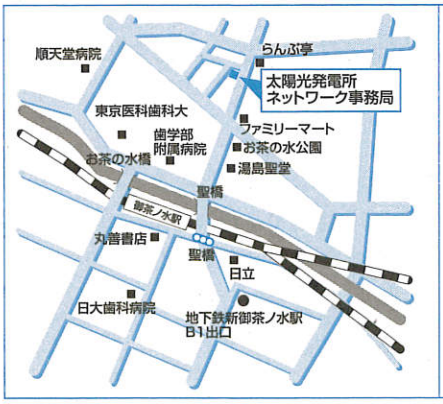
◆PV-Netには豊かな人材が溢れていることを栃木周りで再認識しました。雨後に自分たちのできる範囲で力を出し合って地を固める作業が始まっています。（都）

◆発足準備から会員と一緒につくる貴重な経験をさせていただきました。何よりも人との出会いが大きかった。またボランティアとしてときどき来ますよ。（も）

◆神田明神の空の上、天狗雲を見た。カッと見開いた目と、とがった獅子鼻。おみくじを引いたおばさんに話しかけられて答えている間に消えていた。何かの暗示だろうか。（い）

◆湯島に引っ越してから人の出入りが増え、事務所がにぎやかになっています。学生のヒヤリング、入力や発送のボランティアのみなさん、来客、運営会議……。風の通りもよくなりました。太陽をこよなく愛するみなさんが、玉虫色のPV-Netに、これからもどんな変化をもたらすのでしょうか。（て）

Editor's Notes



NPO法人 太陽光発電所ネットワーク
（略称：PV-Net）

〒113-0034 東京都文京区湯島1-9-10
湯島ビル202号室

〈交通のご案内〉
①JR／地下鉄御茶ノ水駅「聖橋口（秋葉原駅側）」より徒歩5分
②地下鉄新御茶ノ水駅「B1出口」より徒歩5分

TEL 03-5805-3577
FAX 03-5805-3588
URL：www.greenenergy.jp
E-mail：info@greenenergy.jp

活動カレンダー

<2006年5月（16日～）>
16日　HP打合せ（普及広報部会）
　　神奈川地域交流会近隣グループ（金沢地区）
17日　川崎・横浜北部ミーティング(神奈川地域近隣グループ)
18日　神奈川地域交流会近隣グループ（湘南地区）
19日　静岡地域交流会世話人会
20日　佐賀地域交流会立ち上げ記念フォーラム
　　（九州(広域)地域交流会）
21日　PV-Green事業説明会（九州(広域)地域交流会）
　　PV-Green事業説明会（東京地域交流会）
　　神奈川地域交流会近隣グループ（県央地区）
27日　広域地域打合せ
　　第6回理事会
29日　事務局休み
30日　事務所移転日（～31日）

<6月>
1日　山梨地域交流会世話人会
　　群馬地域交流会世話人会
3日　埼玉地域交流会世話人会
4日　さがみはら環境祭り出展
　　（神奈川地域交流会相模原近隣グループ）
6日　ちば市手づくり環境博覧会出展（千葉地域交流会）
　　熊本地域交流会設立準備会
7日　長崎地域交流会設立準備会
10日　茨城地域交流会世話人会
　　千葉地域交流会世話人会
13日　PV-Green事業部会
16日　大阪エコ縁日出展（～17日、関西地域交流会）
17日　第2回臨時理事会
18日　「2006フェスタ・コスタ・デル・ゴミ IN 千本浜」
　　出展（静岡地域交流会）
19日　事務局休み
24日　2006年度総会及び講演会
29日　鹿児島地域交流会準備会
30日　佐賀地域交流会世話人会

<7月>
1日　熊本地域交流会準備会
2日　太陽光発電基礎講座「今なぜ太陽光発電なのパート2」（関西地域交流会）
4日　PV-Green事業部会
6日　山梨地域交流会世話人会
8日　PV-Green事業説明会（佐賀地域交流会）
　　千葉地域交流会世話人会
9日　太陽光発電・防災プロジェクトと交流会
　　（中部地域交流会）
　　大分地域交流会準備会
14日　群馬地域交流会世話人会
15日　ap bank fes'06出展（～17日）
　　市民共同発電所の見学会とPV-Green説明会
　　（山梨地域交流会）
　　長崎地域交流会設立フォーラム
16日　北九州地域交流会準備会
17日　熊本地域交流会設立フォーラム
18日　事務局休み
19日　神奈川地域交流会近隣グループ（川崎・横浜北部）
21日　東京地域交流会世話人会
22日　茨城地域交流会世話人会
29日　牛乳パックの再利用を考える全国大会出展
　　（～30日、山梨地域交流会）
　　2006年度第1回理事会
30日　たはら「エコエネルギーフェスタ」出展
　　（中部地域交流会）
　　兵庫地域交流会準備会
31日　事務局休み

<8月>
5日　埼玉地域交流会世話人会
　　大分地域交流会準備会
　　関西地域交流会世話人会
6日　鹿児島地域交流会準備会
8日　PV-Green事業部会
10日　港区エコプラザ環境学習パネル展示
　　（～9/8、東京地域交流会）
11日　群馬地域交流会世話人会
17日　太陽光発電トップランナー推進事業説明会
　　(第1回) <主催：佐賀県>
18日　群馬地域交流会世話人会
　　東京地域交流会世話人会
19日　千葉地域交流会世話人会
20日　太陽光発電トップランナー推進事業説明会
　　(第2回) <主催：佐賀県>
26日　茨城地域交流会世話人会
　　港区エコプラザ環境学習ワークショップ「太陽エネルギーと遊ぼう！」太陽光でドン・温暖化体験ゲーム・その他ソーラークッキング等を開催（東京地域交流会）
　　鹿児島地域交流会設立フォーラム
27日　PV-Green事業説明会（熊本地域交流会準備会）
　　兵庫地域交流会準備会

<9月>
1日　群馬地域交流会世話人会
2日　埼玉地域交流会世話人会
　　大分地域交流会設立フォーラム
　　関西地域交流会世話人会
　　エコメッセ2006 in ちば出展（千葉地域交流会）
8日　「PV-Net News第12号」編集会議
9日　千葉地域交流会世話人会
12日　PV-Green事業部会
13日　普及広報部会
16日　モンゴル太陽光発電事情視察旅行
　　（～20日、埼玉会員および有志）
　　兵庫地域交流会準備会
20日　神奈川地域交流会近隣グループ（川崎・横浜北部）
23日　茨城地域交流会世話人会
30日　埼玉地域交流会世話人会
　　PV-Netフォーラム茨城
　　（茨城地域交流会・後援：茨城県・つくば市）
　　PV-Netフォーラム東京（東京地域交流会）

頒価：400円（会員は会費に含まれています）
R100 PRINTED WITH SOYINK